

ゆうでんかい、 YUDENKAI

大阪電気通信大学友電会
大阪電気通信大学同窓会組織

The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University

No.114

2012/3

学園の菊の枝は地に臥していても、
学園の香りは世俗の塵をうけない。
学園の梅はまだ花開かないが、
痩せ枝でも力があつて人を包んで育てる。

福田九十二

庭角臥残枝
奇香猶絕塵
園梅雖未花
瘦枝包可人

特集

ふく だく に や
福田 國 彌 理事長インタビュー

「実学を守り未来に花開く人材育成を」

小さな大学でも出来る！

東日本大震災で大きな被害に見舞われた岩手県宮古市の1日も早い復旧・復興を願う福田國彌・大阪電気通信大学理事長の願いを乗せた震災支援の和船、第1～3「宮古OECU丸」3隻が2月20日、震災の海に浮かんだ。命名・進水式には大電通大の石井徳章教授、藤田智一・法人事務局長、観野福太郎・友電会評議員も出席、地元漁協関係者らと復興への船出を祝った。和船3隻の命名式は2月6日、寝屋川市点野のヤマハ・マリン大阪で行われました。



「やっと出来たか。船をみてホッとした」と和船に見入る福田理事長。

復興のお手伝いしてやー

漁船3隻の船名は、「第1 宮古OECU丸」、「第2 同」、「第3 同」で、船体の後部には「大阪電気通信大学寄贈」と記されています。被災地・宮古の地名と母校の英語標記の略称をあわせたもので、「宮古市の復興は漁業から」という母校の願いが込められています。

式では、福田國彌理事長が命名文書を読み上げたあと、クス玉をわり、「頑張って復興のお手伝いしてや」と声をかけながら、一隻一隻に清めのシャンパンを注いでいました。

贈呈和船の命名

東日本大震災復興支援として岩手県宮古市 宮古漁業協同組合に贈る和船3隻について次のとおり命名する

- 第1 宮古OECU丸
- 第2 宮古OECU丸
- 第3 宮古OECU丸

平成24年2月8日

学校法人大阪電気通信大学
理事長 福田 國



大漁旗をなびかせる大阪電気通信大学寄贈の3隻の和船。それぞれ「宮古OECU丸」と大学の名がつけられた。(宮古市の出崎埠頭)



クレーン車でつり上げ、陸から海に移された。



岩手・宮古漁協への震災支援の和船贈呈・進水式出席に向け、雪に覆われた「いわて花巻空港」に着いた石井教授（左）と藤田法人事務局長。



岩手県漁連会長で宮古漁協の大井組合長に和船の命名、贈呈状を贈る石井教授。藤田法人事務局長、観野福太郎評議員（手前の2人）も出席した。



大電通大卒業生で、県立宮古工業高校の菅野和夫元教諭（手前左から2人目）を伴い、同校を訪問、藤原 斉校長（同4人目）と歓談する石井教授ら。



ゆうでんかい

大阪電気通信大学・同窓会組織 友電会会誌

大学学章・スクールカラー紹介	03
編集室より	
福田國彌 理事長インタビュー	04
実学を守り未来に花開く人材育成を	
友電会活動紹介	07
支部だより	09
●支部活動	
■友電会びわこ支部総会・懇親会	
■奈良支部研修会「兵庫県粒子医療センター」報告	
■東海総支部 役員研修会を開催しました	
クラブ同窓会	13
■「2011 トークショー つながり」開催	
■「平成23年度 優秀クラブ活動表彰式」開催	
■学生団体一覧表	
TOPIX トピックス	17
■学校法人理事に大平氏、友電会評議員に観野、廣谷氏を選出	
■友電会主催「ロボット講習会」を駅前キャンパスで開催	
■36会 IN 鳥羽	
■大阪電気通信大学元教授 谷口一雄 氏、放射線セシウム測定用装置を開発・製品化	
■母校である大阪電気通信大学では、平成23年11月6日から5回にわたり、創立50周年記念公開講座が開催されました	
■大阪電気通信大学テクノフェア親子連れで賑わう	
■大阪電気通信大学友電会評議員、菅野氏からの便り	
■第51回大阪電気通信大学大学祭が開催	
■岩手県宮古市立鎌ヶ崎小学校へ教育活動支援物品を寄贈	
■母校・四條畷キャンパスで「なわフェス'11」開催	
■元友電会会長、羽瀧氏個展、市民を魅了して閉幕	
■友電会主催第35回卒研室対抗ソフトボール大会	
学園創立70周年記念祝賀会開かれる	24
高校同窓会便り	27
母校の心を届けた学生ボランティア隊が、	28
岩手・宮古市での活動を終え帰学	
東日本大震災被災地ボランティア活動報告	30

■ 会誌への投稿や事務局への連絡等は E-mail か FAX. で
友電会事務局 FAX: 072-824-1197
E-mail: yudenkai@yudenkai.org

2012年3月12日 第114号

発行所／大阪電気通信大学友電会（大阪電気通信大学同窓会組織）

YUDENKAI The Alumni Association of
Osaka Electro-Communication University

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18 番 8 号
18- 8 Hatsu-Machi Neyagawa-City Osaka Japan 572-8530
(友電会直通) TEL: 072-824-3111 FAX: 072-824-1197
(大学代表) TEL: 072-824-1131 内線 3266
郵便振替番号 00990-5-49361

発行責任／友電会会長 猿渡 洋

編集責任／友電会広報部会長 田中 稲夫

編集／池本 善一、岡本 清孝、川口 明良、藤田 英治、
藤本 明、井野川 一

資料提供／学校法人大阪電気通信大学

大阪電気通信大学事務局他

寄贈先／大阪電気通信大学関係先をはじめ他大学同窓会

並びに国立国会図書館逐次刊行物部、その他

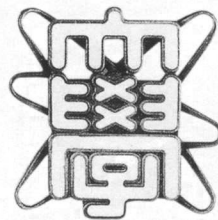
購読料／1年間 500円

(卒業後3年間は無料配布、総会通知号は全会員に)

印刷／ダイコロ株式会社

大学学章

電子工学・通信工学を中心とする大学の象徴として、原子内電子軌道を図案化したものをバックに、「大学」を白抜き文字で配してある。この純白は、清廉・潔白な人材の育成と、祈りと、希いがこめられてつくられた。



スクールカラー

「モスグリーン」。若き学徒の青春の息吹をイメージしたもので「若葉が映えて、深い緑に成長する」との意味を持つ。

編集室より

卒業生の皆さん、新入生の皆さんおめでとうございます。友電会は同窓会組織として卒業生には親睦と交流の場を提供、在学生には研究・クラブ活動など有意義なキャンパス・ライフが満喫できるよう支援、様々な事業を展開しています。

今回発刊の会誌114号では、福田理事長の教育にかける熱い思いをお聞きし、掲載しています。卒業生には格好の人生訓に、新入生には大学生活にかける励ましになると思っています。噛みしめてお読み下さい。

未曾有の大災害だった東日本大震災でのボランティア隊の活動も掲載しました。厳しい環境下での活動は、我が大学の誇りとして大学史の1ページにしっかり刻み込まれることと思います。

友電会においては、卒業生は「正会員」に、新入生は「準会員」になります。組織する若手、ベテランのOB、OGとして両者ともしっかり支えますので、共に手を携えて母校の発展に寄与しようではありませんか。保護者の方々も、電通大に誇りを持って我が子を見守って下さるようお願いします。

福田國彌 理事長インタビュー

実学を守り未来に花開く人材育成を

法人理事
大平 富義学史編さん室長
中西 義友電会会長
猿渡 洋理事長
福田 國彌

インタビューー

友電会会長

猿渡 洋

学史編さん室長

× 中西 義一 ×

法人理事

大平 富義

日時／平成24年2月1日

場所／大阪電気通信大学法人理事室

●福田國彌理事長 プロフィール

昭和18年 京都帝国大学理学部卒業／同30年 立命館大学理工学部教授／同40年 京都大学工学部教授／
同58年 大阪電気通信大学教授／同63年 阪急電鉄顧問／平成3年 学校法人千里国際学園学園長／
同4年 大阪電気通信大学理事長／京都大学名誉教授、大阪電気通信大学名誉教授、理学博士

学園の菊の枝は地に臥していても、
学園の香りは世俗の塵をうけない。
学園の梅はまだ花開かないが、
痩せ枝でも力があって人を包んで育てる。

庭先臥残枝
奇香猶絶塵
園梅雖未花
瘦枝包可人

福田國彌
二〇一四年

■ 教育理念を語る

【猿渡】今回友電会会誌の表紙に漢詩を直筆で頂きました。中興・教育理念と受け止めさせて頂きました。

【福田】南宋詩人、陸游^{りくゆう}(1125年～1210年 号は放翁)の漢詩で、左に訳を書いています。まさにその通りで、私どもの学園は、実学を守り、科学技術を基に日本の将来

の国家社会に役立つ人材を育成したいと願っています。教育というのはたちまち効果が見えるものではありません。20年、30年後に花を開くような教育の志を持っています。百年の計を持ち、世の風潮はどうであれ、常に未来を望んで実学をする学園でありたいと思っています。

■ 科学技術を基にした教育を実践

【猿渡】その理念を反映させるには、どのようにすれば現実のものになるのでしょうか。

【福田】いかなる学問も全部サイエンスです。大学教職員と学生が一体となって実学に取り組んでいます。学生諸君が勉強する以外に無いでしょう。工学部はいうまでもありませんが、医療福祉工学科では、テクノロジーが必要であり関西医科大学と連携して共同研究が行われたり、アセット・マネジメント学科では、JPモルガン・アセット・マネジメント社、中央三井信託銀行、野村證券、りそな銀行などの教育支援を受け、ここでも科学技術を基にした教育を行っています。それがなければ学問は成立しません。全て実学。

資産運用も全部実学。ゲーム、アニメーション、医療・福祉もテクノロジーをやらないと駄目だということです。

■ 環境科学科は工学部の最先端学科

【猿渡】環境科学科(昨年春から)が新たな学科として歩んでいます。

【福田】地球環境の防衛は21世紀の人類の重要課題であり、英知の限りをつくし、あらゆる科学技術の方法を用いて果たすべき課題です。生態系と人間の生存とがうまく調和する、そのためにはあらゆる英知、技術を使って環境の防衛をしないといけないと思っています。環境科学科は工学部の最先端をやる学科でないといけない。学生たちが勤労の貴さを知るため、山野田野に出て勤労し、自然の大循環を体得する。農村漁村や都市の生活に参入して環境保全のために働く。科学(社会科学を含む)や技術(テクノロジー)を勉強し、地球環境破壊防衛の方策を探索し、高い倫理意識に基づいて秩序ある社会の形成を目指す。教員や学生はそういう意識を持ってやって欲しい。

■ 介護の将来には医療ロボの活用大事



【猿渡】医療福祉学部が脚光を浴びています。

【福田】伝統的に長年工学部だけで大学運営をしてきました。工学部だけではこれから先、どうにもなりません。科学技術は人間の生命や感性とかの方に分野を広げないといけないと思

いました。デジタルゲーム、アニメーション、医療福祉…。工学とつけたのは全てテクノロジー。医療福祉では、これから医療福祉のロボットを造らないといけませんね。ある医療大学を見に行ったことがあります。そこでは老人介護の実習をすると、若者がたくさん逃げ出すそうです。介護現場の労働は過酷。テクノロジーの参入が遅れている分野で、非常に大事だと思います。これからロボットをいろんな用事に使ったら、介護現場の人材不足や労働負担の軽減がはかれると思います。今、若い先生方と話をしています。

■ 経済の復活は資産運用・アセット・マネジメントから

【中西】ゲーム・アニメーション・アセット・マネジメン



トの各学科は国際的評価が高いのでは。

【福田】ゲーム学科やアニメーション学科は、日本の貿易の中で世界的シェアが大きいので、そういう人材を創り拡大すると思います。資産運用については日本に人材がいません。日本人は貯金をしているので、資産運用をうまくすれば日本の産業は世界一になると思います。そういう人材を世に送り出したいくて、アセット・マネジメント学科を創設しました。資産運用、ゲーム、アニメーションのいずれでも、フルにコンピュータを使うでしょう。数学的な基本がないと出来ません。

中国から留学生が来ます。今年の4月にデジタルゲーム学科とデジタルアート・アニメーション学科に北京の大学から5人。アセット・マネジメント学科に20人が編入学で来日します。希望生徒が毎年20人くらいいると聞いています。続くんでしょうね。中国のほうがアセット・マネジメントの大切さを認識していますし、ゲームやアニメーションも中国の方が関心が強いですね。

■ 震災ボランティアで若者に活力

【猿渡】「2011年3月11日の東日本大震災」では、昨年8月に学生ボランティア隊が復興支援活動にいきました。この活動に対し、創立70周年記念日の10月1日、式典で先生は「我が校は小さい大学だけれどやれることがある」とおっしゃいました。

【福田】被災の状況をテレビで見ている自分自身イライラしていた。なんとかしてあげないといけないと思って…。震災直後、「誰かボランティアに行ってくれんか」と思いました。しかし、うっかり行ったら、ガソリンがないといわれました。それでちょっと待ちました。大学事務局次長の早野秀樹君が岩手・宮古市出身の人なので、現地と連絡をとりまして「何が欲しいのか」と聞いてもらいました。少しでも直にお渡し出来るものがあれば、と思ったんです。学生ボランティアには26人が出ました。8人が教職員でした。大学から宮古市まで、スクールバスで18時間かかっ

で行ってもらいました。

【猿渡】大変でした。

【福田】ボランティア活動期間中、宮古市の漁業協同組合に船3隻を贈りました。地元の鯉ヶ崎小学校と宮古工業高校には、事前に聞いていた希望の品を寄付いたしました。被災に会われた方々には、喜んで頂きました。政治の対応の遅れ、募金も回らないという話ですし、直にお渡ししようと思ってやりました。一番良かったのは、行った学生が帰ってから元気が出たこと。それが一番いいことです。今の若い人は勤労しないけど、働いたら働けるし、元気になる。そういう風な世の中にならないと日本は滅びます。

■ 卒業生へ、自分でモノを考えるのが大事

【猿渡】卒業と入学のシーズン。まず卒業生に対して一言。

【福田】日本のため社会のために、みんな苦労したらいい。自分で考えるのは大事なこと。実学・技術を基本にして自分でモノを考えて、これからの日本、社会を創って頂いたらありがたい。

■ 新入生へ、自分で道を探す努力を

【猿渡】次に、(4月には)希望に満ちた新入生が入ってきますがー。

【福田】大学では、皆がそれぞれ勉強しないと駄目です。大学で教えることは単なるイントロダクション。いろんなことを知ったうえ、自分で道を探して努力しないと出来ません。学校は良い先生方が努力することが一番大事です。

■ 友電会にも贈られた漢詩



学史編さん室長
中西義一

【中西】友電会に贈って頂いた言葉(漢詩)で表して頂いたと考えました。

【福田】科学技術やっていて、流行らなくてもやっていこうと思う。それが良いと思う。学問のための学問、外国の思想を一生懸命勉強している学部などは駄目。日本で

は、外国の真似をしただけ流行ると思われる。自分でものをしっかり考えて欲しい。

カントの言葉で他人の強制で働くのは動物的意志。犬やネコを動かすのに命令するでしょう。自由意志でモノを考えて自分のある状態をつくるのが、自発性。よその真似してやっていたら単なる命令されてやっている動物的意志。日

本ではそれが支配してきた。学園では自分で考えて欲しいと思っている。

■ 寝屋川を電通大学街に



法人理事
大平富義

【猿渡】友電会を代表としてインタビューさせて頂きました。ご要望がありましたら。

【福田】就職支援は友電会にも大いに協力してほしい。4万5千の友電会会員の人たちに協力頂ければ強いと思う。素晴らしいと思います。

また、寝屋川市は大学街になりかけています。広い道も出来ました。友電会会館を造ったらいいい。学生が寄るような場所を作って、しゅっちゅう学生が広い道に溢れ、寝屋川市駅を降りたら大阪電気通信大学の学生がいる大学街にしたい。昔からそう思っていました。駅前に新しい駅前学舎を置いたのはそういうことなんです。大学街創造に協力して頂きたい。

【猿渡】長い時間ありがとうございました。我々、卒業生としても学生支援に力をいれて就活支援をさせて頂きたいと思います。今後とも連携し大学発展に寄与したいと思います。ありがとうございました。



友 電 会 活 動 紹 介

卒業生の皆様、それに卒業生の保護者の方々、おめでとうございます。卒業生の皆様はこれから社会人の一員になるとともに、母校同窓会「友電会(ゆうでんかい)」の正会員となります。平成24年度で48年目を迎えた友電会会員はゆうに4万人を超えます。ともに手を携え親睦の絆を深めるとともに、母校の発展に寄与しようではありませんか。

また、電通大の門をくぐった新入生の皆さん「ようこそ」。皆さんは友電会の準会員です。研究やクラブ活動など前途洋々の皆さんのキャンパス・ライフでは、友電会もしっかりサポートさせていただきます。保護者の方々、ご安心下さい。

友電会は、大阪電気通信大学の同窓会組織です。各界で活躍する若手や実績をのこして現役をリタイアしたベテランのOB・OGなど同窓生が協力して学生、母校をボランティア支援しています。企業間交流も活発に行われ、就職支援などにつながっています。以下、同窓会組織や活動内容を紹介します。ご理解頂いた上で、積極的な参加と協力をお願いします。

友電会理事会・評議員会

理事会は友電会の執行機関であり、定款に定める予算、事業の計画などの事項に関する審議議決と執行、総会の計画運営、総会より委任された事項の議決に対する執行を行うところです。理事会が執行する案件で、重要と会長が認めた事項に加えて定款第26条に規定されている事業計画および収支予算、ならびに事業報告、収支決算、さらに財産の処分などについては評議員会の承認を得なければなりません。

また、理事会は年6回、評議員会は年3回開催しています。

理事会は10名以上21名以内の理事で構成する、と定款で規定。現在は猿渡会長の下、21名の理事で構成され、日々事項の決定と執行にあたっています。

評議員は204名(平成23年6月現在)で、理事会からの諮問に応じています。

組織部会

【活動内容】

- 支部の育成・活性化
- 支部の新設

- 支部長会
- 本部、支部の総会支援
- その他

支部活動は同窓会活動の根幹であり、組織部は支部の育成と活性化、新設に取り組んでいます。現在、国内外に15支部(「友電会の支部」9頁参照)があり、それぞれ独自の事業・活動を展開しています。支部活動としては、機会あるごとに全国支部長会議を開催し、支部間の情報交換、活性化のための意見交換を実施しています。

各支部では、新卒業生の参加を大歓迎しています。支部について不明なことは本部事務局に問い合わせ下さい。また、友電会ホームページには支部総会の日程などを掲載しています。さらに、大学在学時からOBとの交流が図れるようにしています。支部総会、親睦会などへの参加をお待ちしています。

事業部会

【活動内容】

- 総会・懇親会
- 海外語学研修
- 卒研室対抗ソフトボール大会
- その他の事業

事業部会は友電会本部総会、懇親会、海外教育研修制度、卒研室対抗ソフトボール大会などを担当しています。

海外教育研修制度はカナダ・バンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)で研修を受ける制度で、今年で32回目を迎えました。2月中旬に出発し約1カ月間、研修を受けることになっています。

卒研室対抗ソフトボール大会は、平成24年度で第36回目を迎えます。昨年9月開催の大会には20チーム約270名の学生、先生が参加しました。学内では最大規模の恒例行事になっています。

友電会本部総会、友電会の最高決定機関であり、最も重要な行事であると同時に懇親会は会員相互の親睦、恩師との交流の場にもなっています。

広報部会

【活動内容】

- 会誌「ゆうでんかい」
- その他発刊物

支部 だより

●支部活動●

友電会は支部活動に重点を置いて活動しています。関東・東海の総支部をはじめ、近畿、北陸、九州に支部を置き、海外では北米支部が活動しています。企業間交流や情報収集に最適です。ご参加お待ちしております。

昨年の主な支部活動を紹介します。

【支部及び活動状況】

支部名	支部長(卒業学科・期)	平成23年度活動状況
関東総支部	佐藤 渉一 (I10)	平成24年度に総会開催予定
北関東支部	山口 文男 (H07)	6月18日、わが町地産産業にふれて(見学会)
茨城支部	木村 功一 (F09)	
千葉支部	佐藤 渉一 (I10)	平成24年1月、総会・懇親会
神奈川支部	榎田 俊彦 (F14)	6月4日、日産自動車横浜工場見学会
東海総支部	志村 哲樹 (F07)	5月22日、総会・懇親会。10月1日、役員研修会
静岡県支部	久保田陽一 (F05)	
石川支部	辻 久也 (I13)	平成24年度に総会開催予定
びわこ支部	一谷 醇 (H07)	9月24～25日、設立20周年記念総会・懇親会
京都支部	村瀬 収吾 (E03)	平成24年度に総会開催予定
奈良支部	松井 俊樹 (I14)	平成24年2月19日、支部総会・研修会
神戸支部	池本 善一 (E02)	4月17日、総会・懇親会
三田支部	本田 頌次 (F02)	5月15日、総会・懇親会
九州支部	福田 武 (E02)	9月24日、総会・懇親会
北米支部	高岸 英人 (F17)	

友電会びわこ支部総会・懇親会

日時：平成23年9月24・25日

場所：彦根ビューホテル

母校支援活動「教育部会の継続発展」・「就職支援企業部会の設置」を決める一友電会びわこ支部は平成23年9月24、25の両日、彦根・松原町の彦根ビューホテルを中心に「支部設立20周年記念総会・懇親会」を開催しました。

今年は母校から入試部長 榎本博行教授(工学部 応用化学科/環境科学科)、就職部長 森 幸治教授(工学部 機械

工学科)をお迎えし、母校の情報を語っていただきました。滋賀県在住の会員の他、近郊、関東、九州から会員やご家族の総勢47名様の参加をいただき、講演会や葦笛コンサートなどで楽しみました。

■総会



総会は午後2時から廣谷 明びわこ支部事務局長(F12)の司会ではじまりました。平成22年度決算報告と監査報告が行われ承認。続いて平成23年度事業計画と予算案が審議されました。

事業計画では、会員相互の親睦を図る・職域ネットの平成21年度にスタートした「教育部会」の充実・企業部会を設置し、母校学生の『出口』である就職支援を行うことが提案され、全会一致で採択、始動することになりました。

総会議案

- ①平成22年度事業報告
- ②平成22年度決算報告・監査報告
- ③平成23年度事業計画
- ④平成23年度予算案
- ⑤平成23年度びわこ支部役員



■記念講演会

テーマは『市と浅井三姉妹の生涯』。NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」で主人公となった「市と浅井三姉妹」について、同ドラマ時代考証会議にも参加されている長浜城歴史博物館学芸員、太田浩司さんに科学的根拠に基づき語って頂きました。



「脚本家は史実を聞いてはくれるが、やっけてはくれません。例えば本能寺の変。江と徳川家康が堺にいたという設定、清洲城で開かれた故織田信長の後継者を決める会議を江が立ち聞きしていたなど、時代考証的にいえば99.9%ありませんが、違うという確証はありません。また、小谷城落城の際、城が炎上したようになっていますが、焦土がなく炎上していないというのが定説です。ドラマには人々の営みがありますが歴史学は客観的に考察するという違いです」など、興味深いお話でした。

■ よし笛コンサート



琵琶湖の東側一帯に自生する「よし」を利用した、いわゆる「よし笛」でのコンサート。平尾卓志様(E18期、日本よし笛協会 副理事長)ご夫妻による演奏の数々…。若くして逝ってしまった同胞を偲んでの「千の風」や「昂」「プロジェクトX」「琵琶湖周航の歌」等々…。さざ波に映える午後のまばゆい陽の光、母なるびわ湖に抱かれたひと時でした。

夕刻からはワングルの参加者も数人おられ、コテージ前に屋外特別テーブルを用意していただき2次会へと…。キャンプファイヤーはできなかったものの、平尾さんのBGMでビールを酌み交わしほろ酔い機嫌で宴たけなわ…同窓の絆を深めることができました。

■ 交流会

母校入試部長、榎本博行先生による新入生の近況報告と就職部長、森 幸治先生による直近の卒業生の現状報告がプロジェクターを利用して突っ込んだ説明がありました。

びわこ支部廣谷事務局長からは職域ネットの教育部会を平成21年度に立ち上げ、現在軌道に乗りつつある本部会を継続するとともにさらに企業部会の立ち上げ等、学生の

出口の部分でも支援をすべく拡大と充実を図れるよう努力したい旨を報告し閉会しました。



■ 懇親会

懇親会は7つの円卓に約50人が座り始まりました。副支部長が進行し、来賓のあいさつをいただき、支部顧問、小川徹元短大学長が「皆さんと会うのが楽しみ。元気で頑張ろう」とあいさつし乾杯。無礼講の宴となりました。



■ 9月25日 江～姫たちの戦国

総会2日目は小谷・ふるさと館、浅井・ドラマ館、黒壁・歴史ドラマ館、蕎麦打ち体験の会場へとホテルをあとにバスは出発。NHKの大河ドラマ 浅井家三姉妹が関係する小谷城周辺の史跡や放映舞台、数々の衣装の見学をしました。



■ 体験学習

恒例の体験学習として昼食に「二八のそば打ち道場」に挑戦しました。

そば粉が8に対してつなぎ粉が2の割合、そば打ちは参加者のほとんどが初体験です。

5班に分かれてそれぞれが「そば団子」作りに挑戦しました。衣服が真っ白、両手の指も真っ白、水を入れすぎてベトベトの班、硬すぎてなかなか団子にならない班。ソフトボール大にうまくでき上がった団子を厚さ1ミリ程、70センチ位の大きなせんべいのように麺棒で引き伸ばす作業。上手く楕円形にならない班が続出です。最後は30センチ位のながたなで巾数ミリの「そば」に切断。

これもまた非常に難しい、ウルトラCです。きしめんか、うどんか、そうめんか！。切ったつもりが切れていない！

悪戦苦闘の結果、うどんのような「おそば」も大変おいし



くいただくことができました。

びわこ支部は「湖国の自然と文化に触れて」をテーマに

活動してきました。豊かな自然に恵まれた郷土は、幾度も歴史の表舞台に登場しました。びわこ支部20年の歩みは、県下に散在する史跡を巡り、過去と現在とを結ぶ文化に触れてきました。

今年度は、創設からの足跡を振り返り、さらに未来へ繋ぐ新たな活動を創造したいと考えています。

びわこ支部会員の皆様ならびに友電会会員、関係各位のご支援とお力添えを賜りたく宜しくお願い致します。

奈良支部研修会 『兵庫県粒子医療センター』報告

友電会奈良支部は平成23年10月8日(土)、研修会を17名の同窓が参加のもと実施した。

当兵庫県粒子医療センターは平成13年に陽子線と炭素線の2種類の粒子線治療が行える世界唯一の施設として開設されたものである。コンピュータで高度に制御された粒子線を体の外から病巣めがけてピンポイントで照射することで、がん細胞の遺伝子を直接破壊し、がん治療をする施設である。

当日は難波に参加者会員が期待を込めた顔で集まり、幹



事である山崎氏に手配いただいたマイクロバスで出発した。車中ではよもやま話に花が咲き、それぞれに旧交を温めた。

先ず施設の概要説明と治療方法・治療実績等の説明を受けた後、普段は立ち入ることのできない粒子線加速器室他の施設を見学しながら説明を受けた。初めて見る巨大な設備、まるで大きな工場の様相を見せる設備が治療・医療施



設であるということに驚きの表情を見せながら、多くの質問が見学各設備各場所で発せられていた。

矢能氏からは『学生が研修に来るが、こんなに積極的に質問や見学姿勢を見せることが無い』との感想があったとのこと。



見学した設備や治療方法について意見を交わしつつ帰途につき、夕刻無事帰阪。せっかくの集まった機会でもあり参加者全員で懇親会を実施、大いに楽しいひと時を過ごし解散となった。

最後に兵庫県粒子線医療センター見学をご手配いただいた辻氏、休日にもかかわらず出勤頂いた矢能氏、マイクロバスの手配と運転を引き受けて頂いた山崎氏の各位に感謝いたします。

東海総支部 役員研修会を開催しました

平成23年10月1日(土)に東海総支部は、支部長が志村さんに交代後の研修会を行いました。「地域の歴史探究と近代産業の技術にふれる」というテーマで清洲城および清洲公園見学と麒麟ビール名古屋工場を見学し、役員の見聞を広めると共に相互の親睦を深めました。

藤田英治(F22)

■ 清洲城見学

NHKドラマ「江」の舞台となった清洲城の見学をしました。この清洲城は、平成元年に再建された展示館で展示品は、発掘品の他各コーナーに清洲城の歴史、織田・豊臣・徳



清洲城 天守閣は
犬山城を模したとのこと

川の三英傑や江のビデオ、歴代のNHK大河ドラマの紹介、衣装展示が盛りだくさんありました。

■ 清洲公園

清洲城見学後ボランティアガイドをお願いして清洲公園の見学をしました。発掘された石垣、近所の中学生が製作に通う甲冑工房、織田信長像など案内して頂きました。(ボランティアガイドに案内されて清洲公園へ)

■ 麒麟ビール工場見学

清洲城を後にし、徒歩20分の場所にある麒麟ビール工場の見学に行きました。

麒麟ビール工場では、美しい案内嬢の説明を受け、ビールの製造工程や巨大なタンク設備を目の当たりにし、工場見学ならではの発酵前の麦とホップのジュース(麦汁)の試飲体験(不味い)をしました。



麒麟ビール工場 麒麟ビアパーク名古屋玄関にて

また、麒麟ビールのラベルに隠された秘密なども教えてもらいました。

■ 歓談会

行事終了後、金山総合駅に戻り1日の反省を兼ねて歓談会を行いました。2・3日前迄は雨予報で心配しましたが、当日は見事快晴、秋晴れでの夏日に恵まれ気持ちの良い研修会になりました。中でも麒麟ビール工場でのメインイベントである試飲会でおいしい缶ビールの注ぎ方の説明があり、この日一番役員の方々に受けていました。

今まで知らなかった意外な注ぎ方の説明に、ほろ酔い気分の役員の突っ込みにも冷静に対応する案内嬢とのやり取りは、東海総支部のホームページにアップする予定です。では是非ご覧頂きお試してください。

● 参加者

伊藤慎吾(E01)、野田哲治(F03)、鈴木直彦(F04)、志村哲樹(F07)、山下友彦(F15)、宮條研次(F15)、藤田英治(F22)

IT機器・通信機器の販売・保守ならびにソフト開発・システム販売・事務機器の販売・パソコン教室

営業職・技術職 社員募集中

特徴
イナハラの

1. メーカーにとられない独立系の専門商社!
2. 営業・技術・メーカーとの連携の強さ!
3. 学歴・年齢・男女関係なく、実力を最大限評価!
4. 研修制度(社内、社外研修)の充実!

inahara

株式会社 **イナハラ**

採用問い合わせ
総務部 前田

〒651-0086 神戸市中央区磯上通4-1-26 TEL. 078-231-4088

URL: <http://www.inahara.co.jp>

クラブ同窓会

★ ゲストスピーカー ★

(50音順)



辻 佳彦 氏

(奈良県立医科大学病院：放射線治療部門、友電会理事)

経歴

1977年：大阪電気通信大学工学部電子機械工学科卒業
 1977年：清恵会第2医療専門学院放射線技師科教員
 1980年：放射線技師免許取得
 市立病院、奈良医大病院、県立病院等で放射線医療に奉職
 2001年：奈良医大病院放射線治療部門に奉職
 現在に至る
 2008年：博士（医学）の学位取得（奈良県立医科大学）



新川 拓也 氏

(大阪電気通信大学：医療福祉工学部医療福祉工学科教授、友電会評議員、クラブ同窓会監査役)

経歴

クラブ活動：大学祭実行委員会
 1995年：大阪電気通信大学大学院工学研究科博士前期課程修了
 1995年：学校法人大阪電気通信大学に事務職員として奉職
 情報ネットワーク構築・管理・事務取扱に従事
 1999年：博士（工学）の学位取得（大阪電気通信大学）
 2000年：大阪電気通信大学工学部医療福祉工学科：講師
 2011年：大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科：教授
 医療福祉機器の研究・開発、臨床工学技士の養成に関わる



山口 朝弘 氏

(大阪府医療機器専門相談員、臨床工学技士、友電会評議員)

経歴

クラブ活動：少林寺拳法部
 1969年：大阪電気通信大学工学部通信工学科卒業
 1969年：(株)アムコ科学機械部（欧米の分析装置輸入販売）
 1971年：西村器械（株）（医療機器販売会社設立）に参加
 1973年：西村器械（株）専務取締役営業技術本部長
 （人工透析装置、循環器関連装置、欧米手術器械等の拡販担当）
 2001年：(株)ヒューマンメディックを設立、代表就任
 2009年：大阪府・医療機器専門相談員 委嘱拜命

「2011 トークショー つながり」開催

クラブ同窓会主催、友電会・大阪電気通信大学高等学校同窓会・第51期大学祭実行委員会協賛「大学祭協賛2011 トークショー つながり」が大学祭2日目の平成23年11月5日(土)午後4時20分から 母校・寝屋川キャンパスJ号館6階小ホールで開催されました。



今年も多くの学園関係者が出席

「トークショー つながり」は、『学園関係者の一層のつながり』を求めて学園卒業生や関係者に「それぞれの学園のつながり」を語っていただく、クラブ同窓会主催の大学祭協賛事業。

当日は、ゲストスピーカーに医療福祉工学部の新川教授(クラブ同窓会監査役)が登壇されることから、同学部学生諸君の出席が例年より目立ちましたが、クラブ同窓会・友電会会員を初め、大学、高等学校同窓会、緑樹会から約70名の多くの方のご出席を賜りました。

今年のテーマは「医療福祉工学」。ゲストスピーカーは医療福祉工学に従事する学園卒業生。

トークショーは、池田クラブ同窓会事務局長の司会でスタートしました。

冒頭、平岡クラブ同窓会会長から「本日は多くの方々にご出席を賜り、心からお礼申し上げます。このトークショーを通じて“学園関係者の一層のつながり”を確かなものとしたい。」と挨拶。

続いて、司会から、ゲストスピーカー各位の自己紹介を要請。各氏から、それぞれの卒業後の経験と現在従事の仕事への経緯が語られました。

ゲストスピーカー各位の自己紹介の次は専門分野について個々の質問が出され、各氏はユーモアを交えながら丁寧に分かりやすく解説。また、学生時代の思い出や卒業後の学園への想いも語られ、トークショー会場は熱気に包まれました。

ここで「2011 トークショー つながり」出席記念として、予めサインを終えた、辻氏の学会誌への論文(Physical and Histopathological Assessment of the Effects of Metallic Stents on Radiation Therapy) および山口氏の専門誌への寄稿文(第25回欧州胸部外科学会に参加して)を司会から紹介。希望者に配布されました。

また、終了間際には、多くの学生諸君のために“臨床工学技士”受験対策を、準ゲストスピーカーとして参加の奈良県立医科大学病院勤務の川西秀明氏(H22、医療福祉工学部博士前期課程修了)から説明していただき、加えて、学生時代の恩師である新川氏から補足説明をいただき、学生諸君は興味深々と聞き入っていました。

ゲストスピーカーへの質問が一通り終わり、次は会場からの質疑応答。

まず、新宅氏(法人理事・クラブ同窓会顧問)から「今日は放射線の詳しいお話があったが、原発事故を眼の前にして今後どのようなことに注意すればよいか？」に対し、辻氏から回答をいただきました。続いて、昨年のゲストスピーカーを務めていただいた一期卒の青木氏(友電会評議員)より「放射線治療の治癒率はどの程度か？」とのご自分の体験を交えての質問が出されましたが、この質問にも専門の辻氏から丁寧な回答をいただきました。

最後に、司会から恒例の「学生諸君への一言」を求められたゲストスピーカーは、夫々の学生時代や卒業後の経験、また医療福祉工学という観点に基づいた、心温まるアドバイスが語られました。

トークショー終了後、ゲストスピーカー各位を始め、出席者は2号館学生ホール3Fで開催の「(友電会主催)友電会サロンパーティー」に出席し多くの会員と懇親、『つながり』を一層確かなものにしました。

「平成23年度 優秀クラブ活動表彰式」開催

クラブ同窓会主催、友電会・第51期大学祭実行委員会協賛、学生部後援「大学祭協賛 平成23年度 優秀クラブ活動表彰式」が 大学祭2日目の11月5日(土)午後3時20分から、母校・寝屋川キャンパスJ号館6階小ホールで開催されました。表彰式には受賞各クラブ・団体の代表者、OB・OG、学内関係者など約80名が出席。

同表彰式は大学祭協賛事業として平成16年から開催され今年度で8回目を迎えるが、今年の特徴は“常任自治委員会・大学祭実行委員会・生協学生委員会・文化会本部・体育会本部”の全学生各団体の出席です。



8回目を迎えた「優秀クラブ活動表彰式」

表彰式は金野クラブ同窓会幹事の司会で開会宣言。

冒頭、平岡クラブ同窓会会長は「優秀クラブ活動表彰式は、努力を続ける各クラブ・団体の諸君たちの熱意に励まされ、また関係各位のご協力を賜り今年で8回目を迎えることができ、まことに喜ばしい限りです。本表彰式が各クラブ・団体の励みになり、益々活発なクラブ活動を展開されることを願って止みません。」と開会の挨拶。

また来賓の岸岡学生部部長からは、「学生諸君がクラブ活動を通じて成長されていることは素晴らしいことだ。特にコミュニケーション能力が育まれます。また優秀クラブ活動表彰式で表彰されることが各クラブ・団体の励みになっており、



司会の金野クラブ同窓会幹事



開催挨拶の平岡クラブ同窓会会長



来賓の岸岡学生部部長

これからも頑張っていただきたい。」との祝辞を賜ることができました。

続いて、司会の金野クラブ同窓会幹事から、選考結果(チェックシートによる採点結果一覧表)が発表され、直ちに「平成23年度優秀クラブ活動賞」・「3年連続表彰特別報奨金」・「クラブ活動目標表明褒賞金」受賞クラブ・団体への表彰状と褒賞金が平岡クラブ同窓会会長から授与。

＜平成23年度優秀クラブ活動賞＞授与

(計8クラブ・団体)

◇**体育会系**：男子バレーボール部、弓道部、柔道部、スキー部

◇**文化会系**：通信研究会、映画研究会、放送研究会、自治会吹奏楽団

同時に、優秀クラブ活動賞を3年連続受賞の各クラブ・団体に「3年連続表彰特別褒賞金」が授与された。

＜3年連続表彰＞特別褒賞金授与

(計3クラブ・団体)

◇**体育会系**：柔道部

◇**文化会系**：通信研究会、放送研究会

続いて、本年6月に開催の「平成23度クラブ活動目標表明式」に出席の各クラブ・団体に「平成23年度クラブ活動目標表明褒賞金」が授与された。

＜目標表明褒賞金＞授与

(計20クラブ・団体)

◇**学生各団体**：第51期大学祭実行委員会

第27期生協学生委員会

第51期文化会本部

第51期常任自治委員会

第51期体育会本部

◇**体育会本部**：陸上競技部、スキー部、

女子バスケットボール部、弓道部、

柔道部、硬式野球部、合気道部、卓球部、

男子バレーボール部

◇**文化会本部**：映画研究会、電子技術研究部、通信研究会、

管弦楽団、放送研究会、電子計算組織研究会

優秀クラブ活動賞・3年連続表彰特別褒賞金・クラブ活動目標表明褒賞金授与に続き、3年連続表彰特別褒賞金授与の柔道部・通信研究会・放送研究会の各代表者が、授与の感想と今後の抱負を述べました。

表彰式の全プログラムが終了し、最後に、クラブ同窓会生みの親ともいふべき中山クラブ同窓会顧問(友電会元会長)から「クラブ活動は諸君が社会人になってから必ず役に立つ。勉学と同時にクラブ活動を行うことが将来のためになる。また諸君が悩んだ時には、立派な先輩が沢山おられるので相談に行けばよい。」と学生諸君への励ましと助言を賜りました。

また、猿渡友電会会長(前クラブ同窓会会長)からは「学生生活でクラブ活動を行うことは、非常に意義がある。諸君が社会人になってから、必ずクラブ活動での体験が生きる。これからも頑張ってください。」とエールを賜りました。

表彰式終了後、各クラブ・団体の代表者と出席のOB・OGは記念撮影に望みました。



晴れやかな表情の受賞各クラブ・団体代表者とOB・OG

《学生団体一覧表》 (工学部・情報通信工学部・医療福祉工学部・総合情報学部・金融経済学部生所属)

●自治会直属団体						
	団 体 名	顧問教員	団体責任者		人数	(新入部員)
			学生番号	氏 名		
1	吹奏楽団	ヒルド・ミハエル	W08116	山 本 翔 太	29	(8)
2	応援団					()

●体育会所属団体						
	団 体 名	顧問教員	団体責任者		人数	(新入部員)
			学生番号	氏 名		
1	空手道部	森 下 克 己	E10021	岡 田 竜 典	9	(9)
2	ラグビーフットボール部	辻 谷 将 明	J07044	黒 田 良 太	5	()
3	硬式野球部	金 田 啓 稔	Q07024	川 内 啓 太	68	(13)
4	ソフトテニス部	海老原 聡	H07001	青 池 洋 登	12	(2)
5	弓道部	中 村 初 夫	E08063	野 條 裕 太	15	(7)
6	航空部	竹 田 晴 見	J07014	伊 藤 和 裕	2	(1)
7	卓球部	湯 口 宜 明	J09094	山 本 優 樹	20	(2)
8	柔道部	大 石 利 光	N08011	木 村 遼	15	(2)
9	剣道部	日 坂 真 樹	L07089	中 谷 隆 之	16	(1)
10	バレーボール部	西 岡 昇	J08025	加 藤 章 宏	12	(4)
11	少林寺拳法部	西 原 一 嘉	J07104	丸 本 勝 則	7	(1)
12	サッカー部	堀 井 大 輔	J08019	小 幡 正 和	23	(7)
13	バスケットボール部	米 谷 浩 一 郎	S08047	永 田 晃 浩	41	(17)
14	合気道部	萬 代 武 史	Q08008	板 垣 佑 大 郎	17	(4)
15	陸上競技部	村 木 有 也	S08082	吉 川 直 弥	23	(7)
16	ゴルフ部	福 田 共 和	T09053	土 藏 稔 生	9	(1)
17	ボウリング部	池 内 博 一	N10034	中 野 雄 太	8	()
18	自動車部	森 幸 治	P08140	松 井 伴 憲	6	(2)
19	硬式庭球部	高 橋 保 則	Y08002	有 馬 佑 多	23	(10)
20	バドミントン部	石 井 徳 章	H08107	吉 田 真 也	22	(8)
21	サイクリング部	柴 垣 佳 明	G09032	鈴 木 一 正	5	()
22	スキー部	高 橋 保 則	H07066	西 上 勝 哉	6	()
23	ハンドボール部	神 崎 和 男	Z08056	森 村 孝 平	13	()
24	軟式野球部	鴻 巣 敏 之	L08074	前 田 将 良	54	(17)
25	アメリカンフットボール部	吉 田 正 樹	F07023	小 原 直 也	31	(15)
26	フットサル同好会	来 海 暁	S08067	松 本 大 樹	28	(13)
27	スノーボードサークル	青 沼 秀 児	T09026	北 本 健 太	5	()
28	水上競技同好会	中 田 亮 生	S08019	片 岡 和 馬	4	()
29	ビリヤードサークル					
30	アルティメットサークル	淨 慶 一 之	S09002	秋 山 恵 迪	12	()

●文化会所属団体						
	団 体 名	顧問教員	団体責任者		人数	(新入部員)
			学生番号	氏 名		
1	軽音楽部	立 木 秀 洋	Z08017	木 村 光 伸	36	(13)
2	ギターマンドリンクラブ	土 居 元 紀	N08001	井 田 恭 平	19	(1)
3	SF研究会	新 開 雅 俊	W08122	脇 田 飛 雄 馬	21	()
4	電子技術研究部	吉 田 晴 行	H08045	高 原 郷 司	11	(3)
5	放送研究会	渡 邊 俊 彦	P08075	田 中 佑 典	16	(5)
6	通信研究会	樋 口 英 世	P09064	新 名 健 太	35	(21)
7	テレビ研究会	松 浦 秀 治	F08070	村 野 雄 輝	10	(2)
8	映画研究会	生 田 孝	Q08018	大 倉 圭 人	27	(11)
9	オーディオクラブ	村 上 恭 通	W08060	杉 本 憲 亮	5	()
10	管弦楽団	前 川 泰 之	E08052	津 田 征 輝	11	()
11	ART & CRAFT	川 口 雅 之	E08011	上 野 聡	8	()
12	電子計算組織研究会	小 南 昌 信	T08100	米 山 友 裕	10	()
13	天文愛好会					
14	文道部	小 田 康 徳	P08019	井 上 容 徹	24	()
15	デザインコミュニケーション部 WAVE	上 田 和 浩	W08042	北 口 裕 樹	14	(3)
16	コミックアート	沼 田 哲 史	Q08109	渡 辺 亮	41	(4)
17	殺陣道同好会	小 笹 俊 博	Q08013	上 原 聡 介	4	()
18	奇術愛好会	何 一 偉	F07008	梅 本 顕 二	6	(2)

※ () 内人数は、新入生部員 ◆ 灰色箇所は休部中の学生団体を示す。

学生団体加入状況		学生数	新入生数
自治会直属団体加入者数		29	8
体育会所属団体加入者数		511	148
文化会所属団体加入者数		298	65
加入者総数		838	221
学生数 (100501) :		5283 名	
加入者比率			15.86%

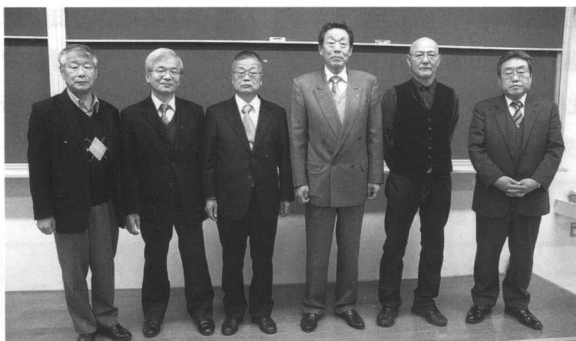
学校法人理事に大平氏、 友電会評議員に観野、廣谷氏を選出

任期満了に伴う友電会評議員選出「学校法人評議員選挙」が平成24年1月21日、寝屋川学舎で行われ、観野福太郎氏(E04)、廣谷 明氏(F12)の2名が選出されました。

また、理事会は理事会選出法人理事に大平富義氏(H08)、法人評議員に川口明良氏(F04)、藤本 明氏(I06)、稲原廣法氏(E07)の計4人を選出した。

卒業生代表法人評議員は10名で、校友会、高校同窓会が5名を選出しています。友電会は選出区分を理事会3名、評議員会2名としており、今回の選挙は6名が候補者、投票で「評議員会区分2名」を選出しました。

なお、正式には3月8日に開催される学校法人の理事会・評議員会で承認後、決定します。任期は平成27年3月7日までの3年間です。



写真は左から、川口、大平、観野、藤本、稲原、廣谷の各氏

◆ 高校同窓会選出の評議員(4名)

- ・新宅 寛(高校同窓会副会長)
- ・吉川 博史(高校同窓会会計監査)
- ・大音 博司(高校同窓会幹事)
- ・森 強(高校同窓会会長)

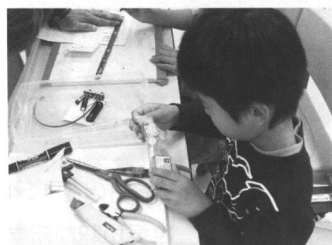
◆ 校友会選出の評議員(1名)

- ・未定

友電会主催

「ロボット講習会」を駅前キャンパスで開催
— モーターで走るゴリラバスの製作に親子で挑戦 —

平成23年11月27日(日)、友電会主催で「ロボットづくり、基礎から学ぼう少年・少女体験講座」が、大阪電気通信大学と同高等学校が共催、寝屋川市教育委員会



が後援して大学駅前キャンパスで開催された。案内期間が短かったものの、当日は18組の親子の計35名ほどが集まり、モーター駆動の模型自動車であるゴリラバスの製作に夢中に取り組んだ。

講師は大阪日本橋でんでんタウン電子工作教室で活躍されている大野一廣氏(F05)で、他にスタッフとして6名が加わり行われた。

今回はタイヤの車輪を回し、さらには大容量のコンデンサを付けて電気を手回し機で充電し、この貯めた電気で走らせるなど、紙コップロボットよりバージョンアップしたものとなった。小さい子供ながら、貯めた電気でモーターを回して走らせるという仕事を見せて、電気や磁気の不思議さを説明していた。

2時間ほど掛かってやっと完成したバスに、さらにボディに大阪電気通信大学のゴリラバスの写真を貼り付けて完成となり、そのバスを廊下で親子が走らせて、ロボットづくりを基礎から学ぶ体験を実感していた。



36会 IN 鳥羽

本学1期生の親睦会である36会(昭和36年大阪電気通信大学入学生の親睦会、あえて卒業年度は限定していない)、幹事は輪番制でほぼ2年毎に開催しています。本年は東海地区が担当で、11月20、21日、野村・伊藤両幹事のはからいで鳥羽に集い、翌日は伊勢神宮に参詣しました。

〈臼井 宏 記〉

初日の鳥羽グランドホテルでの宴会は、伊藤名幹事のアイデアによる寸劇を古希を迎える爺さん達がパーティグッズで身を飾り(?)、まだ酒も廻っていないのに真面目に演じる様は、実に滑稽で愉快でした。

2日間とも良い天気にもぐまれ、鳥羽の青海に没出する

太陽の景観が素晴らしく、翌日皆で訪れた伊勢神宮では松や鳥居などが青空に冴え、しかも参道では偶然にも池田厚子大祭司様(現天皇の御姉君)を拝見することが出来、忘れることの出来ない楽しい思い出となりました。

ホテルの宴会の中のこの会を会社に見立てた寸劇で、筆者臼井は新入社員なのに10年以上空屋の会長に推挙されました。しかし先述の輪番制のため会長は何もすることが無く何もしない。

さて、次回2年後の幹事は三浦氏と決まりましたが、場所はどこになるのかなど今から楽しみです。後輩諸君も名前は何でも良いから37会、38会のような各年度ごとの親睦会を設立されては如何でしょうか？

今回の参加者(敬称略、五十音順)は、青木政治、伊藤慎吾、臼井 宏、大塚敏兼、岡本紘、北野武男、白岩義則、竹沢和彦、西原正明、野村康明、羽瀧完俊、藤本辰美、松岡紀之、三浦聡之、宮崎 孝、安田千尋の16名。



鳥羽グランドホテル玄関前での集合写真 平成23年11月21日



「伊勢神宮」で 平成23年11月21日

大阪電気通信大学元教授 谷口一雄 氏、放射線セシウム測定用装置を開発・製品化

母校元教授で(株)テクノエックス、谷口一雄社長は、食品中の放射性セシウムとカドミウムの濃度を同時に測定できる装置『FD-08Cd/Cs=写真』を開発・製品化。東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い注目を集めています。



製品は、朝日新聞や日刊工業新聞に紹介された他、週刊朝日2011年11月8日号に掲載されています。

詳しくは、下記(株)テクノエックスホームページよりご覧下さい。

<http://techno-x.co.jp/web/>

「FD-08シリーズ」の新機種として放射性セシウムの濃度測定機能を追加したもので、放射性セシウム濃度のみを測定する「FD-08Cs」も販売を開始しています。検体40gをセットし、スイッチを入れると1,000秒で自動測定。最大56検体を同時に検査できます。定量限界値は1kg当たり100ベクレル以下で、厚生労働省が通達した「牛肉中の放射性セシウムスクリーニング法」の基準にも対応しています。

谷口氏は母校・電子工学科2期生で、工学博士(東大)。母校工学部応用化学学科教授として長く教育研究に携わってこられたあと、蛍光X線分析の専門プロ集団・同社を設立。

母校である大阪電気通信大学では、平成23年11月6日から5回にわたり、創立50周年記念公開講座が開催されました

未来を開くテクノロジー総合大学・母校は、「未来社会への発信」をテーマに創立50周年記念公開講座を開催しました。

なお、11月6日は「大学祭」や科学が体験できる「テクノフェア」が催されました。

■第1回エレクトロニクスにおける未来技術

11月6日(日) 15:00～17:00

寝屋川キャンパスY号館Y324教室

「プラズマの拓く未来技術」(プラズマ化学賞受賞記念講演)

大阪電気通信大学・工学部電気電子工学科 教授 橘 邦 英

「スピン偏極電子の拓く未来技術」(山崎禎一賞受賞記念講演)

大阪電気通信大学・工学部電気電子工学科 教授 越 川 孝 範

■第2回放射線と原子力の今後

11月19日(土) 14:00～16:30

寝屋川駅前新学舎6階ホール

「放射線と人間生活」

大阪電気通信大学・工学部基礎理工学科 教授 福 田 共 和

「原子炉の安全性と原子力発電の今後」

(株)原子力安全システム研究所・技術システム研究所長

三島嘉一郎 氏

■第3回水資源・環境における未来技術

11月26日(土) 14:00～16:30

寝屋川駅前新学舎6階ホール

「水を取りまく技術と文化—安全・安心・やすらぎを求めて—」

(独)水資源機構・関西支社長 原 稔 明 氏

「ダム貯水池の水環境に関する新技術」

大阪電気通信大学・工学部環境科学科 准教授 中田 亮 生

「水の再生と浄化技術」

大阪電気通信大学・工学部環境科学科 教授 高岡 大 造

■第4回未来のエネルギーと社会

12月3日(土) 14:00～16:30

寝屋川駅前新学舎6階ホール

「再生可能エネルギー利用の現状と将来展望」

(財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 研究所長 山 地 憲 治 氏

「自然エネルギー利用のための蓄電技術と材料」

大阪電気通信大学・工学部環境科学科 教授 川 口 雅 之

■第5回未来の医療福祉技術

12月9日(金) 14:00～16:30

寝屋川駅前新学舎6階ホール

「無意識で健康に!」

大阪電気通信大学・医療福祉工学部医療福祉工学科 教授 千 原 園 宏

「歩くだけで健康に!」

京都大学大学院・人間・環境学研究科 教授 森 谷 敏 夫 氏

大阪電気通信大学テクノフェア 親子連れで賑わう

科学の不思議を体験するイベント「テクノフェア in ねやがわ」が11月6日(日)、大阪電気通信大学寝屋川キャンパスと駅前キャンパスで大学祭と同時に開催された。地元の寝屋川市教委をはじめ四條畷、交野、大東、枚方、門真、



守口の各市教委後援で、あいにくの雨にもかかわらずたくさん親子連れが足を運んでいた。

体験イベントは「エネルギー」「のりもの」「バーチャルと体験」「福祉・医療」「ロボット」「レーダー」それに「金融と経済」の各コーナーの計8種類が用意された。

「のりもの」では、環境科学科の中田亮生准教授の研究生が担当、電気自動車や水素の化学反応で発電するシステムを紹介。左下写真の自転車をこいで電気を灯す*体力勝負、の体験もあり、ちびっ子が両親や兄弟に励まされて懸命にペダルを踏んでいた。

人気だったのが「バーチャルと体験」。高所からタマゴを落としても割れない紙の容器づくりの「エッグドロップ」、ふにゃふにゃの感触が楽しい「スライム」、大きく弾むスーパーボールを利用、紙のロケットを飛ばす工作…。どれも、時間待ちができるほどの人気で、会場はノリとハサミを手にした親子連れの楽しそうな会話が飛び交っていた。

原発事故で注目された放射線を測定するガイガーカウンター作りもあった。小さなプラスチック容器と紙、電線、6000Vの高圧電源装置などで空気中の放射線をキャッチする試み。1回20人程度の定員がアツという間にいっぱいになるほどで、子供そっちのけで夢中になるお父さんの姿も見られ、担当の溝井 浩講師らは説明に追われていた。

幼稚園児から大人まで科学を楽しめるイベントは、ほか



にブラックライトを使って通常では見えない紙幣やパスポートの模様、写真を浮き上がらせる光の不思議、医療福祉工学部の笑いを測定する機器の紹介など、楽しいプログラムが目白押し。「学ぶ」「見る」「触れる」の電通大生のイベントは好評だった。

大阪電気通信大学友電会評議員、菅野氏からの便り

今年度友電会総会・懇親会にあわせ、被災地岩手・宮古市から第二の故郷・母校に里帰りされた友電会評議員、菅野和夫氏(F03)からお便りがありましたので、ご紹介します。

地震・津波で壊滅的な被害を受けられた上、福島原発事故の放射線との奮闘がつづられています。また、学園がピンポイントで支援活動を実施している同地に、学生ボランティア隊を派遣した「学園の心」も確実に届いている様子が書かれています。

同窓諸兄、「友電会としてできることは何か」—考えてみませんか。



菅野氏から送られてきたDVD



母校に里帰りした菅野氏

■菅野氏からのメール

猿渡会長並びにみなさまへ

——市中を走るゴリラバスに涙、感謝——

第2回評議員会欠席します。議決権は会長に委任します。誠にすみません。

本年度総会が昨日のように思い出されます。生きて皆様に会えた感動が甦ります。評議員会開催を心待ちにしていたのですが、開催日時を拝見し、どうにもなりません。議題を見て、さらに行かねばならぬ心境ですがどうにもなりません。1週づらしてと叫びたいです。

当日は8月から準備してきました作家広瀬 隆氏を宮古へお迎えし、市民の皆様方へ福島原発事故状況の講演会開催日となります。宮古も6年前に比べ放射線量が2倍の0.056μSv/hに上がってきております。明らかに、事故の影響をもろに受けている状況です。私たちには保障もありません。

私たちには、関西方面に避難する術もありません。除染除去で郷土を守るしかありません。災害復興計画策定に携

わっていますが、いずれも国の対策費が頼りです。これ以上、東電の二の舞のため税金つぎ込みを止めなければと奮闘中です。

また、議題に「宮古市学生ボランティア隊への支援金について」を審議事項に入れていただきましたことに感謝申し上げます。派遣していただいたことだけで感謝、感激です。

石井先生はじめ学生諸君とは1日だけしかお会いできませんでしたが、みなさんがどのような思いで来られたかが分かりました。後輩の早野くん以外は初めての地と聞きました。それもボランティアとして、その中に友電会から前期高齢者の観野くんまでも。

今年の夏は例年になく暑かったです。その中の重労働、たこ焼きの提供、そして津波の破壊力の恐ろしさを目の当たりにして帰ったと思います。そんな中、現地の先輩は何もできませんでした。でも、市中を走るゴリラバスを見た市民には「大阪」の文字が目に残ったと思いますし、私も翌朝目にして涙が出てきました。

大阪から私たちのために来られたことに元気付けられましたし、勇気をいただきました。遠来のみなさんありがとう。私も現地からのお礼として、石井先生はじめ学生諸君が働いた地で「3.11何が起こっていたか」を収録したDVDをお送りしました。

学生諸君にはボランティア活動した現地に行ってきた証を後世に伝えて欲しいと願っております。

〈第3回生評議員 菅野和夫〉



第51回大阪電気通信大学大学祭が開催

学生の祭典・大学祭オープンセレモニーが平成23年11月4日(金)、寝屋川キャンパス中庭で行われました。大学祭は6日(日)まで。

今年のテーマは「UNITY」。「一致団結して大学祭を盛りあげよう」と第51期大学祭実行委員会(委員長、中島大樹・機械工学科3回生)らが、趣向を凝らした約40の模擬店やソフトボール大会、謎の企画「親の苦勞をしれええ」などが催されました。

来場者をお迎えするのは、コスプレ姿の「女性」や動物やキャラクターグッズの着ぐるみをかぶった学生ら。呼び



込みの掛け声を聞くだけでも楽しさいっぱいでした。

模擬店の中でも電子技術研究部の「感電ラーメン」は、50年の歴史を持つ老舗。先輩から引き継いだ『秘伝の味』は絶品。空腹の時によし、飲んだあとも、またよし。たくさんの人が味わっていました。



岩手県宮古市立鉾ヶ崎小学校へ 教育活動支援物品を寄贈

復興支援活動の一つとして、岩手県宮古市立鉾ヶ崎小学校へ教育活動支援物品を寄贈しました。合唱練習の際に使用するグランドピアノ運搬車1台と冬の寒さ対策用の大型ブライトヒータ3台です。

目録贈呈は、平成23年10月22日(土)鉾ヶ崎小学校体育館で行われました。当日は、児童の皆さんが日頃の学習成果を発表する学習発表会が行われており、目録贈呈は学習発表会のプログラムの合間に行われました。

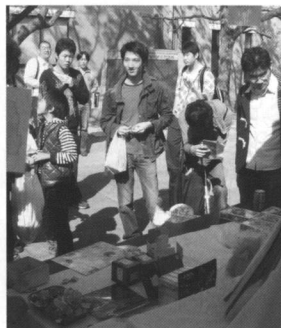
学習発表会では、1学期が震災の影響で、1ヶ月遅れで始まりましたが、その遅れを感じさせず、力強い素晴らしい発表会でした。特に6年生の発表では、「輝こう鉾ヶ崎」と題した群読劇が行われ、頑張っている地元の方々に扮して熱演していました。この群読劇は、児童が地元の方々が復興へ向かって立ち上がっていく姿を取材し、まとめあげたものとのことです。

劇中、「日本中、世界中から沢山のご支援をいただき大変感謝しています。その方々に鉾ヶ崎が頑張っているということを伝えたい」、「私たちは真っ白な地図を受け取った。この真っ白な地図に、未来の輝く鉾ヶ崎を創っていききたい」との素敵な台詞がありました。

大阪電気通信大学は、地域の未来を築いていく子供たちの教育支援を通じて、東日本大震災の復興支援を続けていきます。

母校・四條畷キャンパスで 「なわフェス'11」開催

「畷流 Soul&Power」をテーマに10月9日、四條畷キャンパスKONAMIホール前広場で、「なわフェス'11」が開催、市民や学生、それに父母で賑わい、秋のひと時を楽しみました。今年で3回目。



市民や学生らで賑わった「なわフェス'11」。元気な呼び込みに足をとめていました。

広場には、恒例となったポン酢焼きそば屋「露流魂」、盛りだくさんの景品が当たる「おもちゃくじの縁日屋」、リーズナブルな価格で空腹を満たす「コロッケ屋」など7店が出店。「わたがしはいかがですか〜」など、元気な呼び込みの声に足をとめ、どの店も大忙し。

特設ステージでは、母校OB「おーそね みつお」さんが'10に結成した「クルール」の演奏。「いつか」、「がんばれ」などを熱唱、歌声は澄み切った四條畷学舎「清滝の空」にこだま、観客はうっとり聞き入っていました。



観客を魅了した「クルール」の演奏と歌声

このほか、KONAMIホールではアニメーション声優、「佐藤聡美さんのトークショー」、6号館2階では卒業研究室作品や学生作品が展示されたほか、KOZUKIホールではサークルが製作した「コミックアート展」、体育館では「フリーマーケット」が開催されていました。



美人ぞろいの「ピースメッセンジャー」。学生らの人気の的でした。

後援会の店。金魚すくいならぬ「ボールすくい」。馬のコスチューム姿の学生に思わず笑みが。



体育館で催されたフリーマーケット。商品は服やパンツ、本などで新品同様。学生より市民の方々が興味深げに見入っていました。

四條畷キャンパスイベント運営委員会、山本一馬委員長の話「大学後援会、四條畷市、同教育委員会、一般企業の後援をいただいたほか、市民の皆様や学生の協力で成功裏に開催できましたことにお礼を申し上げます。来年はさらに進化させたイベントとなるよう頑張ります。今後ともよろしくをお願いします。」

元友電会会長 羽瀨氏個展、市民を魅了して閉幕



『愛・幸せ・感動』をテーマに、母校1期生で元友電会(同窓会)会長、羽瀨完俊氏の「第25回羽瀨完俊絵画展」が平成23年9月30日から10月6日まで、寝屋川市の市民ギャラリーで開かれ、繊細で力強いタッチと暖色系の色使いの作品で市民を魅了、盛況のうちにおえました。

■ギャラリーではユーモアたっぷりの説明

元海上自衛隊海将補(少将)画家の作品とあって話題を呼び、多くの市民が会場に訪れ、中には『ふくろう』の作品に見入り「ぜひ譲ってほしい」と申し込みがあるなど、新たなファン層が誕生した個展でした。

ギャラリーでは鑑賞に訪れた市民一人ひとりに、描いた動機や作品の年代背景など、羽瀨氏が絵画の説明。女性から「羽瀨画伯は、どうしてグラマーな女性ばかり描いているのですか」と質問され、はにかみながら「好みでして…」と笑いを誘うなど和やかな雰囲気でした。

■学園創立を祝い、第二の故郷「寝屋川市」で個展

個展は25回目、寝屋川市早子町の京阪寝屋川市駅前アドバンスねやがわ2号館3階市民ギャラリーで開かれま



多くの市民が鑑賞に訪れた絵画展。作品を熱心に見入っていました。



「武人画家」の作品に立ち止まって鑑賞。羽瀨画伯はユーモアたっぷりに作品を説明していました。

した。平成23年9月30日(金)から母校の大阪電気通信学園創立70周年・高校創立60周年・大学創立50周年を祝うとともに、青春時代を過ごした思い深き「第二の故郷」・寝屋川市で開催したものです。

展示されたのは、好んで描いている学問の象徴「森の哲学者」や苦労しない「不苦労」などさまざまな呼称のある『ふくろう』、『富士山』、外国での感動の光景など、油彩絵画・版画約100点。繊細で力強く暖色系の作品が特徴。

■母校から初の海将補(少将)誕生

羽瀨氏の輝かしい経歴は、昭和36年、大阪電気通信高等学校を主席で卒業後、同年母校へ入学。同40年、防衛大学と同等といわれ全国の大学生が受験した「自衛隊幹部候補生試験」に見事合格。同年4月、海上自衛隊幹部候補生学校(第16期)へ入校、「武人」の道を歩み出しました。

技術幹部として、幕僚、教官、指導官、研究開発などを、一等海佐(大佐)からは、総合幹部として監督官、部隊指揮官などを歴任、中でも対潜哨戒機の各種装備機器の開発には大きな足跡を残されています。平成10年7月、海将補(少将)で退官。

■作品は数々の賞を受賞、美術年鑑でも大きな評価

絵画をはじめたのは38歳の頃。海上自衛隊勤務で全国を「転戦」するなか、研ぎ澄まされた集中力を養うため、隊内のクラブ活動・絵画部に参加、「自分の感性で見たものを描いてみたい」と思ったのがきっかけ。これまで数多くの作品を出展、全自衛隊美術展では文部大臣奨励賞・防衛庁長官賞、綾瀬市美術展では市議会議長賞・産経新聞社賞・綾瀬市郵便局長賞など、数々の賞を受賞。これまでに関東を中心に個展を開催されています。

美術年鑑平成23年度版によりますと、羽瀨氏の作品は『1号(葉書1枚)6万6千円』の評価を受けています。

【羽瀨完俊(はぶち さだとし)氏の略歴】

- ・太陽美術協会(上野)評議員
- ・綾瀬市美術協会副会長
- ・大阪電気通信高等学校13期(S36年卒)
- ・大阪電気通信大学1期(S40年卒)
- ・元大阪電気通信大学友電会会長
- ・元海上自衛隊海将補=海軍少将=Rear Admiral

友電会主催

第35回卒研究室対抗ソフトボール大会

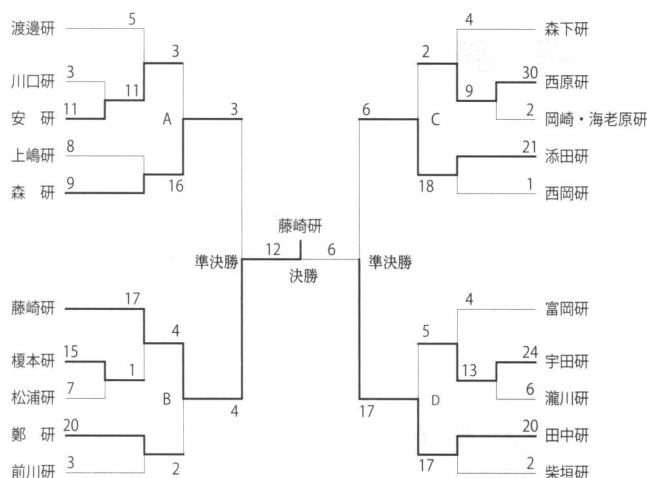


優勝した藤崎研究室メンバー(電気電子工学科)

母校晩夏の風物詩となる卒研究室対抗ソフトボール大会が台風一過の青空の下、9月6日と7日の2日間にわたって20チームにより行われた。雨のため前日の準備ができなかったため、6日の午前にグラウンド整備の作業をしたのち、午後1時から開会式を行って試合が開始された。決勝戦は2日目に例年のように中西先生(元電子材料工学科、G学科)が主審を務め、野球経験者を多く抱えた両チームによる高いレベルの戦いの結果、電気電子工学科(E学科)の藤崎研究室が優勝して5連覇を達成した。



準優勝の田中研究室メンバー(電子機械工学科)



株式会社 オンテック

ONTEC CO.,LTD.

プリント回路関連事業

- プリント基板設計事業
- プリント基板製造事業
- プリント基板実装事業
- EDMS事業

システムソリューション事業

- エンベデッド事業
- ビデオコミュニケーション事業
- 特機事業

本社

〒564-0062
大阪府吹田市垂水町3-20-27
TEL 06-6338-8581
FAX 06-6338-8593

http://www.ontec.co.jp

スピードと変革が求められる**現代社会**
新しい発想でビジネスを切り拓きます。

【事業内容】

ソフトウェア開発、コンピュータ機器の販売、経営コンサルタント業務、IT教育事業、WEBシステム開発、CG・CMの制作、自然食品販売

FCS 富士コンピュータ販売株式会社

本社 〒675-0034 兵庫県加古川市加古川町稲屋790-1
TEL: 079-427-1111 FAX: 079-427-0123
HP http://www.fujicomp.co.jp

学園創立70周年記念祝賀会開かれる

日時：平成23年10月1日 場所：ホテル阪急インターナショナル

母校「学園創立70周年記念祝賀会」が平成23年10月1日、大阪市北区茶屋町のホテル阪急インターナショナルで開催。東日本大震災に寄り添う母校は、祝賀会の規模を大幅に縮小、簡素にお祝いしました。

友電会から猿渡 洋会長、野村康明副会長(学校法人理事)ら10名が参加、祝意を表しました。

■ 祝賀会

祝賀会は紫苑の間で行われ、冒頭、東日本大震災や福島原発事故、台風12、15号で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い国土の復興を祈念して黙とうを捧げました。



被災地に寄り添い簡素に行われた祝賀会。福田理事長は誇らしく歴史と理念を語っておられました

祝 辞

文部科学大臣 中川正春

このたび、学校法人大阪電気通信大学が創立70周年の佳き日を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。

まず最初に、このたびの東日本大震災により被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、復興活動に当たられている皆様方の多大なる御尽力に心からお礼を申し上げます。また、貴法人におかれては、大阪電気通信大学及び高等学校での被災地からの生徒・学生の受け入れなど、様々な形で被災地支援に御尽力いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

大阪電気通信大学は、「東亜電気通信工学校」が昭和16年に創立されて以来、建学の精神である「電子工学及びその母体である電気通信工学に関する学理を中心として、広く知識技能を教授研究するとともに、併せて一般教養の涵養を図り、健全なる心身と人格を有し、かつ、専門の電子工業、電気通信工業界の研究者、または技術者としての素養を啓発して、我が国の科学・産業界に有為なる人材を輩出すること」に基づき教育を行い、多くの優れた人材を世に送り出し、我が国の教育の発展に大きく寄与してこられました。また、この間、5学部、大学院、高等学校を擁する学園として発展を続けておられます。福田理事長をはじめ、歴代の役員、教職員の皆様のこれまでのたゆみないご努力に深く敬意を表します。

教育は、これからの日本を拓いていく礎です。我が国が発展し、

世界に貢献していくためには、それぞれの学校が個性や特色を十分に発揮しながら教育の質を高めていくことが、より一層重要になってきています。

大阪電気通信大学におかれては、平成21年4月に、現代グローバル社会で活躍できる有能な専門的人材を育成することを目的とした「金融経済学部」を新設されました。また、本年、これまでの伝統を継承しつつ新しい大学の理念として、「基本理念」、「目指すべき人間像」、「教職員の行動指針」を策定され、この理念のもと質の高い人材の育成に取り組まれておられると伺っております。加えて、本年4月には、学生の教育研究活動に加えて市民講座の開催など地域と密着した教育活動の場として「駅前キャンパス」を寝屋川市に設置されました。

また、高等学校においては、高等学校と大学との連携コースの設置や医療電子コースの設置など、常に時代のニーズに対応した学びの場を提供されています。

このような優れた教育を積極的に推進しておられる大阪電気通信大学に対して寄せられる社会からの期待は、今後ますます大きくなるものと考えます。

本日の栄えある記念祝賀会を契機に、学校法人大阪電気通信大学が、これまで築き上げてこられた伝統と実績の上に、役員、教職員並びに関係の皆様のご研鑽と御尽力により、今後更なる発展を遂げられますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



学園創立70周年祝賀会が催された
ホテル阪急インターナショナル



■ 福田理事長あいさつ

挨拶に立った学校法人大阪電気通信大学 福田國彌理事長は、創立70年、高等学校60年、大学50年の歴史と発展した学園の足跡を振り返ったあと、学園の理念を力強く述べられました。

「今年は環境科学科を開設いたしました。地球環境の防衛は21世紀の人類の最大の課題であり、英知の限りを尽くし、あらゆる科学技術の方法を用いて果たすべき課題であると思っています。実学を護って教育を行い、20年、30年後に花開くような人材教育を志し、国家社会に役立つ人材を育成したいと思います」



学園の理念を語られる福田理事長。
学園関係者は心新たに聞き入っていました。

大阪府知事 橋下 徹

学校法人大阪電気通信大学が学園創立70周年・大学開学50周年・高等学校開校60周年を迎えられ、本日記念祝賀会がこのように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

貴学園は、1941年(昭和16年)に、わが国で最初の電気通信専門の学校として、大阪府守口市に東亜電気通信工学校を創設され、その歴史の第一歩を踏み出されました。現在では、普通科と電子工業科を有する高等学校、理工系の5学部を有する大学及び3研究科を有する大学院を擁し、わが国の工業立国の礎となる電子工学を中心とした専門技術者を育成する学園として発展してこられました。

20世紀後半に起こったハイテクノロジー革命が、IT革命、さらにはブロードバンドデジタル通信時代へとつながり、21世紀社会全般にわたる情報文化の大きな潮流を作りました。こうした経済社会環境が著しく変化する中であって、貴学園は、一貫して実験・実習を重視した実学教育を行い、21世紀産業の未来を開拓する学生を世に送り出し、各界から高く評価されているところです。

特に、高等学校においては、ハイテクノロジーに関する諸分野での技術革新の急速な進展と高度な知識・技術の必要性に応え、自ら学ぶ意欲を持ち、何事にも主体的に対応できる基礎的知識と実践的な応用力を兼ね備えた人材の育成に力を注いでこられました。また、電子工業科に日本で初めて医療電子コースやデジタルゲーム開発コースを設けるなど、時代の要請に応えた特色ある教育を行うとともに、生徒の個性や適性に応じて希望する進路を歩むために必要な学力を身につける教育に取り組

まれ、卒業後の進路決定率が極めて高い高校として、中学校現場における評価も定着しているところです。

これもひとえに歴代理事長をはじめ、学園関係者の皆様の教育にかけける情熱とご努力の賜物と深く敬意を表します。

大阪府におきましては、今年度から、大阪の子どもたちが中学校卒業時の進路選択段階において、家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、新1年生から私立高校生への授業料支援制度を大幅に拡充しました。平成23年度の入試結果において、公立中学校卒業生が昨年より2000名減少している中、私立高校の入学生が3000名も増えるなど、授業料の無償化拡大の施策効果が現れています。

授業料無償化の拡大により、授業料負担における公私の競争条件が整うこととなりましたが、生徒から支持され、魅力ある教育を提供するための切磋琢磨を促すことにより、大阪の教育力の向上を目指すこととしています。

貴学園におかれましても、より一層、学校の魅力づくり、特色づくりに取り組み、引き続き大阪の教育力向上の一翼を積極的に担っていただきますとともに、「教育・日本一大阪」の実現に向け、本府施策の推進に、今後とも、ご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、学校法人大阪電気通信大学が学園創立70周年を契機として、益々の発展を遂げられますとともに、理事長先生や校長先生をはじめ、学園関係者の皆様のより一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



■ 祝辞

祝辞は、文部科学省 中川正春大臣、大阪府 橋下 徹知事、日本私立大学協会 大沼 淳会長からそれぞれ贈られました。

中川大臣の祝辞を代読した同省私学行政課長、勝野氏は、「寝屋川学舎と駅前学舎を見学させていただきました。素晴らしい教育設備と実験設備に驚きました。このような教育環境を存分に生かし、国を支える人材を数多く輩出されることを期待しています」と高い評価をされていました。

このあと水野博之副理事長の発声で乾杯、懇親会へ。学校法人大阪電気通信大学、藤田智一法人事務局長が謝辞を述べられお開きとなりました。



文部科学省、勝野課長は国を支える人材の輩出に大きな期待をよせられました。



乾杯の発声をされた水野副理事長。
学園の飛翔を祈念して杯を上げられました。



祝 辞

本日の佳き日、学校法人大阪電気通信大学の創立70周年記念祝賀会が開催されるにあたり、全国389校の私立大学をもって組織する日本私立大学協会を代表して、心からお慶びを申し上げます。

さて、私立学校はいつの時代にも、時代や社会を先導する教育を実践し、優れた人材の養成と社会の発展に貢献する存在でありました。

学校法人大阪電気通信大学もまた、昭和16年、東亜電気通信工学校として開学されて以来、時代の要請と社会の負託とに応えた着実なる充実・発展の歴史を積み重ねてこられました。昭和33年には、産業界より、電子工学分野における専門技術者育成のため、4年制大学の設置が求められ、それに応えて、昭和36年、大阪電気通信大学を創設され、本年めでたく創立50周年を迎えられました。

大阪電気通信大学におかれましては、開学以来、一貫して、実験・実習を重視する実学教育に取り組まれるとともに、半世紀に及ぶ教育と研究の成果を継承しつつ、学生を起点とした改革に取り組まれてこられました。

今日では、基礎学力を高めるための「習熟度別クラス」の設置や企業研修の前に基本マナーを指導する「ブレインターンシップゼミナール」を実施されるなど、他の範となる貴学独自の学習システムを導入されています。さらに、貴学ならではの優

れた教育支援にかかる取り組みが、文部科学省の選定事業に採択されておりますことは、輝かしくも高度な私学教育の証明であり、誠に慶賀に堪えません。加えて、記念すべき本年4月には、新たに駅前キャンパスが竣工し、より充実した教育・研究体制を構築されましたことは、貴学の燦然たる歴史を創造するものと確信いたしております。

また、充実したキャリアデザイン・資格学習支援の成果は、高い就職率・資格取得率に顕著であり、私学精神あふれる貴学独自の学風に育まれた多くの有為なる人材が、幅広い分野において活躍されておりますことは、私学教育の面目躍如たるものを強く実感いたします。

思うに、今日のご隆盛は、歴代関係者の情熱と想像を絶するご苦勞の数々は申し上げるに及ばず、我が国教育文化への高邁なる理想の実現に心血を傾注される理事長 福田國彌先生、学長 都倉信樹先生を中心とする関係各位のご努力の賜物であると拝察いたし、衷心より敬意を表するしだいであります。

結びに、学校法人大阪電気通信大学におかれましては、激動の現代社会において、知識基盤社会の中心を担う私立学校の役割の重要性に深く思いをいたし、創意工夫と時代進取の私学精神を遺憾なく発揮され、一層の躍進を遂げられますことを心よりご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

日本私立大学協会 会長 大沼 淳

高校同窓会便り



★大阪電気通信大学高等学校同窓会の活動概要★

高校同窓会の年間活動内容は、

- ①年1回の総会懇親会開催(毎年5月第3土曜日に開催)
- ②母校の生徒募集活動の支援(同窓会メンバーに対して、母校の学校案内・募集要項・入学願書等を高校の受験生がいると想定される年代に送付)
- ③高校行事・学園行事への参加
- ④母校および生徒等への支援活動
- ⑤総会で決定された総会懇親会開催等、事業計画実施のための役員・幹事会の開催(年4回程度開催)
- ⑥同窓会新規加入者名簿および加入者名簿の管理
- ⑦他同窓会運営にかかる事項

平成23年度総会懇親会の概要

平成23年5月21日(土)午後5時から、大阪電気通信大学寝屋川キャンパスのJ号館1階の学生食堂を会場として開催した。

例年は、大阪市北区の「弥生会館」を会場として開催してきましたが、昨年度の開催時の参加人数が、予想を大きく上回り、会場にテーブル・椅子の追加ができない状況となり、次回以降は、広い会場を確保する必要があるとの認識を持ち、今年は、会場経費のことも考えて、母校の学生食堂を会場として開催した。

総会については、同建物の教室を借用して開催した。当初予定通りの議案を承認可決していただき無事終了した。

懇親会の参加者数は、来賓者を含め約100名規模のパーティーとなり、同窓生同士の旧交を温めるもの、恩師との再会に感激されるものなど、年1回の開催を楽しみに参加される同窓の数が増えているように感じた。

反省点としては、母校の先生方の出席者数を増やせていないことがあります。特に退職された先生方の出席案内についても検討しなければとの反省があります。同窓会の魅力のひとつとしては、恩師との再会も重要な点であると認識します。

同窓会員の皆様からの同窓会に対する要望等をお待ちしています。大阪電気通信大学高等学校同窓会宛に文書でいただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

[報告：会長・副会長]

電 通 大 へ の 進 学

2010年春の卒業生312人のうち、4年制大学へ242人が進学(大阪電気通信大学に152人)、短期大学へは2人が進学。4年制および短期大学への現役進学率は78.2%(普通科71.3%、電子工業科83.1%)、専門学校を含めると進学率は92.0%になります。就職は13人(同4人、同9人)4.2%です。

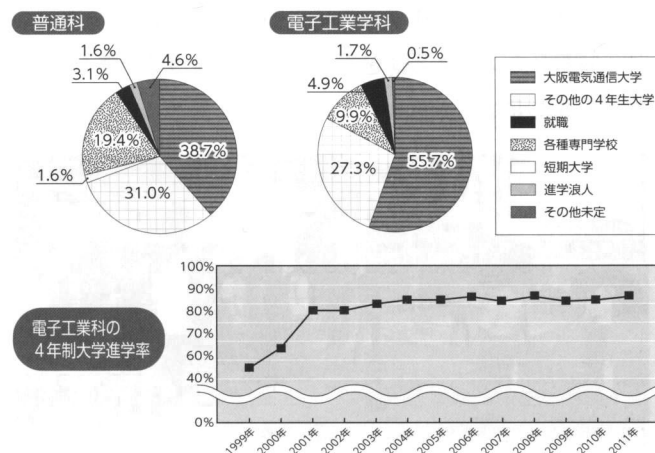
4年制大学への進学率が一昨年より下がり、80%を割ってしまいました。専門学校を含めた進学率は昨年並みの90%台ですから、昨年度は専門学校への進学者の比率が増えたことが

原因です。専門学校

を進学先にする主な理由は経済的なことのようにです。就職が定まらない4年制大学に進学させるより、2年ほどで卒業でき、就職も面倒見の良い専門学校を選んだと考えられます。

電子工業科の4年制大学進学率は昨年も80%を超えています。電子工業科の生徒は、理系の勉強で具体的なことを考えた高校選択があって、その延長線上に大学進学もあるので意志が堅いからだと思われます。

グラフに見られるように2000年までの進学率は50%台でしたが、2001年からはほとんど80%台を保っています。電通大高校は進路未決定で卒業する生徒の比率が低いことにも注目していただきたいと思います。



入学金減免・奨学金支給の特待制度

2010年度から公立高校は授業料無償化、私立高校には国の就学支援金制度が始まりました。また、大阪府在住者には支援補助金も出るようになりましたので、電通大高校で実施しておりました特待制度は少し修正しました(別掲)。

別掲1、2の入学金の減免は願書提出時に自己申告して頂くようになっています。受験生の父母、兄弟が電通大高校卒業の場合や兄弟が電通大に在学中の場合、入学金が半額になります。是非、ご子弟の進学先に電通大高校を考えて下さい。

3の入学金免除、奨学金支給は出願時の中学校の成績や当日の成績で決まりますので申請の必要はありません。いずれも専願、併願は問いません。本校に進学した場合、適用します。

別 掲

1、入学金の免除

入学生の兄弟が本校に在学中の場合。入学生が双子の場合1人分。

2、入学金の減額(半額免除)

入学生の父母、兄弟が本校の卒業生の場合。入学生の兄弟が大阪電気通信大学に在学中の場合。

3、入学金免除、および奨学金の支給

入学志願に提出する中学校の英語・数学・国語の評定が良好な生徒の場合と、当日の試験の成績が上位20人以内の場合には入学金を免除し、奨学金(年20万円)を3年間支給する。

母校の心を届けた 学生ボランティア隊が、 岩手・宮古市での 活動を終え帰学

皆さんは私たちの誇りです。学生ボランティア隊26名は8月11日午前7時、支援先の岩手・宮古市からゴリラバスで寝屋川市の母校へ帰ってきました。早朝にもかかわらず法人本部、藤田智一法人事務局長や学園関係者、それに友電会、田中稲夫・水谷元也の両理事らが出迎え、拍手を送りました。日焼けして真っ黒の学生らは整列した後、隊を代表して工学研究科制御機械工学専攻 博士課程 辻 琢磨氏が「支援活動を終え、無事に帰ってきました」と報告しました。



石井徳章隊長から隊員にねぎらいの言葉が贈られた

続いて引率した機械工学科教授、石井徳章隊長は「炎天下の中、全員よく頑張ってくれました。宮古市の方々に皆さんの心が通じたことでしょう。この経験を基にして、人間的に成長していただければこの上ない喜びです。皆さんは、私たちの誇りです」と隊員をねぎらいました。藤田事務局長は、「福田國彌理事長は、皆さんの活動に感謝されておられます。経験は社会で役立つと思います」と述べ、石井隊長と握手を交わしました。



隊員を率いた早野事務局次長
(同窓28期)の挨拶

■ 石井徳章教授を隊長に ボランティア隊が出発

母校は東日本大震災の支援活動の一環として、卒業生の住む宮古市へ



頑張った女子隊員です



無事大任を果たして帰学した学生隊員達

8月5日から7日間、学生ボランティア隊26名と教職員8名を派遣しました。10日には、「復興は地場産業から」と漁船3隻の目録を地元漁協に贈呈しました。

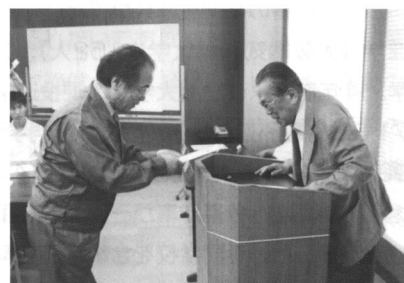


学園の心を胸に被災地・宮古市へ向かうボランティア隊の学生

学園の心を乗せた「ゴリラバス」は8月5日午前、母校・寝屋川学舎から岩手・宮古市へ出発、バスに乗り込んだ学生や教職員総勢34名のボランティア隊は、福田理事長や都倉信樹学長、野田哲治友電会副会長ら多くの学園関係者の見送りを受けました。

母校では、3月の被災直後から、おもに東北、北海道方面の教職員の方々に、何かできることはないか、取組方法を考えておられました。その思いや声は、次第に大きくなり、宮古出身の早野秀樹事務局次長が同市在住の卒業生らと日程調整、7月末に日程が決まり、学内の学生らに一齐メールで案内を配信、説明会や個別面接などを重ね、26名のボランティアが決まりました。壮行会で福田理事長は「ぜひ一緒に行きたいものですが、この歳では邪魔になるかもしれません。無理はしないでください。何もかもできるわけはありません。それよりも大阪電気通信大学の学生さんの一言と気持ちさが素晴らしい、と言われるように行動してください。」と激励、石井隊長に船3隻の目録を託しました。

石井隊長は「震災後、本学のボランティアをしたい、と希望する学生た



石井隊長に船3隻の目録を委託

ちを大学として支援したい、その趣旨から募集したところ、たくさんの学生が申し出てくれました。学生のみなさまがこのボランティア活動を通し、将来、人間的にさらに立派



工学研究科制御機械工学専攻
博士課程 辻 琢磨氏

に成長していただきたい。」と感謝の気持ちを述べました。

支援活動参加者代表の工学研究科制御機械工学専攻博士課程 辻 琢磨氏は「ここの26

名と、ご同行いただく教職員の方々とともに、復興のお手伝いができるよう努力してくることをここに宣言します。」と決意表明、壮行会を終了しました。出発にあたっては、友電会組織部会長、川口明良氏(元海上自衛隊一等海佐 F04)が、自衛隊や同隊OBから収集した情報を基に「地域の方々とのコミュニティを大切に、自分の避難経路を確保、まわりを見て作業を…」などとアドバイスしました。友電会副会長、野田哲治氏(F03)からは石井隊長に支援金が贈られました。



川口明良氏(元海上自衛隊一等海佐 F04)



友電会副会長 野田哲治氏

被災学生支援

母校は被災のため入学後わずか1カ月で退学を余儀なくされた学生に入学金・授業料全額返還、3年生で全壊の被害を受けた学生には授業料免除措置、2年生で半壊の被害を受けた学生には見舞金を、それぞれ支援しました。

友電会は、被災学生に対し見舞金を送ったほか、菅野氏には地域自治会活動で不可欠なパソコンとプリンター各4台を贈呈。6月25日開催の平成23年度通常総会・懇親会に招待しました。

教職員名簿

隊長 石井 徳 章 教授	機械工学科
小 南 昌 信 教授	通信工学科
大 野 宣 人 教授	基礎理工学科

事務職員（順不同、敬称略）

早 野 秀 樹	大学事務局次長
池 宮 達 雄	法人経理部長
渡 邊 堅 一	教務部課長
清 水 学	メディアコミュニケーションセンター
カ 久 竜 治	

学生名簿（順不同、敬称略）

辻 琢 磨	大学院工学研究科博士後期課程2年
上 橋 祐 介	// 工学研究科制御機械工学専攻2年
木 下 具 晶	// 工学研究科制御機械工学専攻2年
瀧 内 泰 博	// 工学研究科制御機械工学専攻2年
八 木 一 聡	// 工学研究科制御機械工学専攻2年
植 村 亨	// 工学研究科制御機械工学専攻2年
坂 上 和 弘	// 工学研究科制御機械工学専攻1年
神 脇 力	工学部応用化学学科3年
中 尾 洋 平	// 応用化学学科3年
瓜 生 晋 一 郎	// 電子機械工学科2年
遠 藤 輝	// 電子機械工学科2年
畔 取 良 磨	// 電子機械工学科2年
稲 村 敦 人	// 機械工学科4年
大 林 智 幸	// 機械工学科4年
更 西 貴 充	// 機械工学科4年
中 村 誠 志	// 機械工学科4年
福 田 哲 平	// 機械工学科4年
下 貴 美 子	医療福祉工学科2年
塚 本 郷 土	情報通信学部通信工学科1年
大 久 保 忍	情報通信工学部情報学科3年
久 世 崇 史	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科4年
美 濃 孟	// デジタルアート・アニメーション学科2年
福 田 直 央	// デジタルアート・アニメーション学科1年
石 田 達 大	// メディアコンピュータシステム学科3年
寺 本 和 晃	// デジタルゲーム学科1年
中 内 洋 祐	// デジタルゲーム学科1年

東日本大震災被災地ボランティア活動報告

東日本大震災被災地ボランティア活動報告会が平成23年10月6日、寝屋川学舎で行われました。

冒頭、挨拶に立った福田國彌理事長は、「教職員8名とともに26名の学生諸君がボランティアで行くというお話で、非常に感激いたしました。本当に日本がこれからよくなるためには、皆さんのような若い人の力が大事だと思っております。皆さんがボランティアに参加していただいたことは、この上ないことだと喜んでおります。今日は皆さんの報告を伺いたいと思ってやってきました。」と、目を細めて学生らの顔を見渡されていました。

学生ボランティア隊の報告が終わった後、隊長として同行した石井徳章教授が「ボランティア活動でやっている皆さん方の行動を見ていて、日ごとに成長してくるので楽しくなって、それを見るのが非常にうれしかった。理事長先生を始め、本部の事務の方たち、大学の職員の方たち、先生方の支援があって、こういうことが初めてできました。最後になりましたけれども、心より御礼申し上げます。学生諸君、皆さんいい発表ができましたね。皆さんがいることを私、誇りに思います。皆さんは電通大の誇りです」と学生らに声をかけておられました。

ボランティア活動報告の要旨は次のとおり。

(学科・学年は報告会当時)

学生リーダー



「力合わせてやり遂げた。
経験を次に生かしたい」

大学院工学研究科博士後期課程

2年 辻 琢磨

東日本大震災ボランティア支援活動の学生リーダーを務めさせていただきました。震災が起こった直後ぐらいから、寝屋川駅前で募金活動をさせていただいておりました。そんな中、事務局の早野さんから支援ボランティアの募集の連絡をいただきました。直接的にかかわりたいなという思いもあった中、早野さんから「学生リーダーをやってみてくれないか」という連絡をいただき、学生のまとめ役をさせていただきました。

被災地はかなり危険な状況だということも考えられました。幸い自分が所属している石井研究室から気心の知れた大学院生が何人も参加していただきましたので、彼らにサブリーダーをしていただいて学生たちの間の情報伝達と学生の安全面を確保しようと考えました。また、もう一つ大事なことは、学生の士気を落とさないということが最も重要な仕事の1つだなというふうに考えました。

大阪の寝屋川市からは総行程が1,100km、所要時間18時間かけましてバスで移動しました。現地の状況とボランティア活動は8月6日から8月8日にかけて宮古市のボランティアセンターから割り振られた仕事を学生26名と教職員がそれぞれグループに分かれて担当しました。民家の床下のヘド口の除去作業や図書館の本の整理等々を請け負いました。住まわっている方がもう50代、60代の方ばかりで、助けがないと泥を除去するのは非常に困難だったんだらうということを感じながら作業させてもらいました。

宮古市の鎌ヶ崎小学校にも行きました。交流イベントとして、学童らと校庭や学童の家で遊び、タコ焼きを大阪の名物として実施させていただきました。一緒に参加していただいた学生さんらの力のおかげで、何とか力を合わせて無事成功することができました。

被災された方々を見ていますと、全く弱音を吐かず、日々真剣に生きていらっしゃる。現実を淡々と受け入れて、一

生懸命生きているというのが感想です。悲観的にならず、頑張り過ぎないでやるのが大事というようなこともおっしゃってました。

大阪もこれから先、南海地震等々で大きな震災の起こる可能性が言われています。この現場へ行ったことを学びまして、次に生かせるように、日々まじめに頑張って生きていきたいなと、思った次第でございます。今生きている場所で全力を尽くして頑張っていきたいなと思います。ご支援、ご同行いただきました先生方、事務職員の方々、また電通大で後方から支援していただいた職員の方々、役員の方々も含めまして、感謝を申し上げたいと思います。また、一緒に参加していただいた学生さん、本当にありがとうございました。



「周りの励ましに助けられた。
被災地の心のケア必要。」

医療福祉工学科

2年 下 貴美子

女子1人だったんですけど、いろんな人に支えられながらできたことは、すごくよかったなと思っています。

現地に着いてすぐに思った感想は「泊まるホテルはきれいだし、解体オーケーと書かれた家屋などはあっても外見を見る限り、そんなひどいわけではない。被災の少なかった土地に来たのかな」というものでした。しかし、当時の写真を見せてもらったり、ホテルの周りに行く機会があって、その写真とか光景を見る限り、パッと見ただけでは気づかなかただけで、「まだそんなに復興は進んでいない」ということでした。

ボランティアセンターに行くまでに、体育館前に設置された仮設のおふろの掃除をしました。毎日そこで掃除をしたんですけど、そこのおばさんとか地元のおじさんが毎日々々、「ありがとう」とか、「きょうも元気に行ってらっしゃい」という言葉をかけてくれたり、差し入れとしてジュースとかパンなどをくれました。大したこともやってないのにという思いだったんですけど、「来てくれただけでうれしい」という気持ちの言葉もかけてくださいました。そういう周りの人たちの声なんかに助けられ、

元気に(活動)できて本当によかったと思います。

3日目は民家の草刈りをしました。そこへ地元に戻ってきているボランティアの人がいました。地形によって同じ海沿いでも被害が全然違う、といったことなど現地の人たちの実際の話が聞けて、本当によかったなと思います。

最終日は小学校に行かせてもらいました。先生たちが、被災のときに(子供たちを)ちゃんと先導して避難させてくれたからこそ、この子たちが生き残れ、その笑顔が見られているんだなと思うと、(震災時)臨機応変に対応した人たちは「すごい」と思いました。

表面上、町もかなり復興して人の力はすごく大きいなと思う一方、まだまだボランティアが足りてないところも多くて、被災地の人の心のケアもまだまだ必要だなと思いました。

岩手県の人たち、ボランティアスタッフの人たち、一緒に行った人など、いろんな人に出会えたことはすごくよかったなと思います。このボランティア活動に参加して本当によかった。このような機会があれば、また参加できればと思いました。



「元に戻るまで やることある。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 上橋 祐介

移動中の行きと帰りの18時間が一番大変だったという人も、多分たくさんいると思います。(現地では)初めに避難所の前にある仮設のおふろのタイルを磨く掃除などをしました。こちらは4日間とも毎朝やりました。その中で僕は体育館の中の床磨きなどもやりました。その後、ボランティア団体の集会場に集まって、ボランティアセンターの方からそれぞれやる仕事の指示をもらって担当を分けました。私はA班の班長を務めさせていただきました。1日目は、仮設住宅の1軒1軒に扇風機や掃除機などの家電製品や洗剤などの生活用品を持っていく作業でした。200軒近くありました。この炎天下の中で1軒1軒回って行って「こんにちば。ボランティアセンターの者です」と言って渡していくんです。暗く落ち込んでいる雰囲気に対応されるのかなと思ったんですが、「ああ、ありがとう。これくれるんや。頑張ってるね」と、明るい言葉をかけていただきました。

行ってみて、まだまだ元に戻るまでやることがたくさんあるので、ボランティアもみんなこれからまだまだ忘れないで続けていったほうがいいのかなと感じました。



「津波の恐ろしさ知った。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 植村 亨

8月5日に出発して到着するまでの間、バスから風景を眺めていたんですが、建物の1階はビニールシートで覆われていたものの、道路はほとんど舗装されてきれいになって、車もいっ

ぱい走っていました。ほとんど復興されているのかなと思いました。しかし、被災地の銚ヶ崎小学校前に行ったときには、ほとんど建物が土台しか残っていませんでした。宮古湾の近くに行ったときは、津波の恐ろしさがわかりました。田老地区の堤防から眺めたときは、ほとんど真っさらな土地(更地)になっていました。

僕たちは泥出しなどの作業や避難所のおふろ掃除、体育館に住まわれていた方の撤去作業の手伝い、銚ヶ崎小学校の学童の子供たちとの触れ合いを行いました。住民の方々は、元気でびっくりしました。今回、被災地である宮古市に行って、津波の恐ろしさ、被災者の状況、被災者の方々の大変さを知ることができました。これを語り継いでいかなければならないと思います。



「災害、風化させないことが役割。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 瀧内 泰博

テレビ等で福島や宮城県の様子を見させていただき、現地へ行って少しでも被災者の役に立ちたいと思っていました。そのときに、ちょうどこのボランティア活動のお話をいただき、参加しました。ボランティア活動は4日間。仮設住宅に救援物資の配達を行いました。被災された方から「ありがとう」「暑い中、頑張ってください」と、逆に応援の声をいただきとても勇気づけられました。側溝の泥出しや空き地の草刈り、子供たちとも遊びました。

このボランティア活動を通じて学んできたことで1つは、地震や津波の恐ろしさを身をもって感じたことです。自分自身は18年前に阪神・淡路大震災という地震による災害は経験していますが、今回は津波が自分たち人間にどのような被害をもたらすのか、生で見て正直言葉を失うほどでした。2つ目は、災害に負けない人間の力強さ、そしてチームワーク(の大切さ)です。みんな現地では復興に役立つという1つの目標に向かって、すごいチームワークを持って活動できました。大災害を今後、風化させないことが、自分たちボランティア活動を経験した者の一番大事な役割だと思っています。



「元気な子供に救い。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 八木 一聡

参加した学生は計26名。辻さんをリーダーとして、AからA3の8班に分かれて活動してきました。僕は、B班のサブリーダーとして精いっぱい頑張ってきました。初日は3つのグループに分かれて、床下の泥出しや道の泥の撤去、仮設住宅の支援物資の配給などを行いました。僕は、B班として床下の泥出しを行いました。ヘドロを取り出して、土のうに詰めるという作業です。午前ぐらいで終わり、午後からB班のやっている空き地の泥の撤去の手伝いに参加しました。そこでは本当に土が人

の高さぐらいいまで山のように積み上げられていて、それを人の手を使って土のうに詰めて撤去していきました。

この地でボランティアをしている方々や現地の方々が、非常に元気で力強く作業を行っており見習わなければならないなという気持ちになりました。そういう経験を通して、災害の恐ろしさというのは絶対に風化させてはいけなさと感じています。



「機会があれば参加したい。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 木下 具晶

駅前で1週間ぐらい募金活動を行いました。でも、もっと現地の役に立ちたいということで、この話が出たときにすぐに申し込みました。

活動のスケジュールは6日から9日の4つの活動内容になります。1日目は仮設住宅に住まわれている方への支援物資の配給です。まず、トラックからザッと荷物をおろして、仮設住宅の1軒1軒に配っていくんですけども、この物資は扇風機と掃除機と洗剤のセットでした。2日目に、側溝の泥出しをしました。3日目は、畑の草刈りです。4日目は鉾ヶ崎小学校で児童たちと遊びました。一番疲れたのはこれだと、僕は思っています。学校外の子供たちとも遊んでいたんですけど、おんぶした状態で全力でダッシュするなど疲れしました。学生の方たちと先生方、事務職員の方々、約30名でこの活動を行った4日間ではありましたが、内容の濃い活動ができたと思っています。このようなボランティア活動の機会があれば、ぜひとも参加したいと思います。



「復興への対応学べた。」

大学院工学研究科制御機械工学専攻

2年 坂上 和弘

ボランティアは4日間。初日、家の床下の泥出し、2日目は側溝の泥出し、3日目が草むしり、とひたすら外で肉体労働をする3日間で、最後に小学校でのイベントということで児童の子供たちと遊んできました。

初日の床下の泥出し作業をやっている休憩のとき、この家の納屋を見ると津波がここまで来たという線が残っていました。破壊されたところが多くて、そういう津波の恐ろしさはわかりやすいんですけども、本当に車の屋根ぐらいいの高さまで水が来てたんやなというのがわかるって、自然災害はすごいなと思いました。

今回のボランティアに参加して自然の脅威を実感しました。僕が住んでいるのは和歌山の北のほうなんですけども、もし東南海地震が起こったとき、復興のためにどのようなことをすればいいのかというのを少しは学べたかなと思っています。



「大きく成長できた。」

工学部応用化学科

3年 神 協 力

8月6日から土運び、サロン、草むしり、タコ焼きづくりをしました。土運びは、盛っている土を布袋に詰めて指定された場所まで運ぶという作業でした。初めは8人で作業していたんですが、終了1時間前になっても半分も終わらなかったで約20人ほどにお手伝いしてもらい、それでも終わらなかったで、結局最後はブルドーザーが来て全部片づけていきました。8月9日は、鉾ヶ崎小学校の子供たちとそのあたりに住んでいる人たちにタコ焼きをつくる作業をしました。数をこなし、真ん丸としたきれいなタコ焼きがつかれるようになって子供たちや近隣住民の人たちに「おいしい」と絶賛していただいたので、本当によかったです。今回のボランティアを通して、一緒にボランティアに行った電通大の方々、現地の人たち、いろんな人たちと交流することができました。私は、このボランティアで大きく成長することができたと思います。ありがとうございます。



「考え方変える5日間。」

電子機械工学科

2年 瓜生 晋一郎

僕がこのボランティアに参加した目的は2つ。1つは世界的な大災害の中心地である東日本の東北に身を投じることで、人生観というか、価値観が何か変わったらいいなという思いと、夏休みで暇やし誰かのために役に立てたらええな、という軽い気持ちで行ったんです。6カ月もたっているし、「大体片づいているやろ」みたいなスタンスで行ったんです。でも、その考えが見事に打ち砕かれました。ホテルに着いて窓を見たら車の山。ちょっと行ったところには僕の身長3倍ぐらいい高さのガレキの山が東京ドーム分ぐらいいありました。聞いたところによると、宮古市のごみをそこの1カ所に集めたらいいんですね。6カ月経ってできたことといえば、ごみを集めただけなんです。まだまだやることあるのに、僕は何という軽い気持ちでボランティアに行ってしまったんだという後悔が一番最初にきました。そんな感じでボランティアに行ったんですけど、僕の生き方というか、まだまだだめやなと思ったし、考え方をもう大きく変えるすごい有意義な5日間やったと思います。





「自宅近くの地名に親近感。」

電子機械工学科

2年 遠藤 輝

ホテルに着いたとき、1階の部分が津波で使えなくなっていました。ネットとかニュースとかで震災の惨状を見ていたんですけど、自分で最初目の当たり^{そけい}にして、ちょっとすごいなと思いました。近くのJRの磯^{そけい}鶏駅は津波で流された感じになっていて、人気のない状態でした。近くのスーパー周辺に廃墟があって休憩のとき、ちょっと入ってみました。バーみたいなのところ^{そけい}で、入っていくと客席のカウンターはぼろぼろでした。

3日目に、小学校で全国から寄贈された本に番号をつけてコンピューターで登録して整理するという作業をしました。僕の地元が和泉市というところで、その和泉市の隣が高石市というんですが、寄贈された学校名に高石小学校と高石幼稚園がありました。自分の地元の隣の市の小学校から寄贈されていて、すごく近いものを感じました。みんながつながっているという感じがしました。



「貴重な経験できた。」

電子機械工学科

2年 畔取良磨

ボランティアに参加した理由は、友達の瓜生君が紹介してくれて、募金するだけでなく、現地に行って少しでも力になりたいなと思い、参加しました。震災から約半年ぐらいたって行ったので、復旧が進んでいると思っていましたが、実際に現地へ着いてみると、テレビで見るような光景ばかりだったので驚きました。

仮設住宅への支援物資を届ける作業では、長時間で足がガクガクになるぐらいしんどかったです。被災地では、街灯や信号の復旧も少なく、夜になると真っ暗で足元があまりわからないところが多々ありました。交差点は信号が片方だけしかないところもあったので、車などが通るときはかなり怖かったです。

ボランティアに参加して、いろんな人たちと出会い、仲よくなれて貴重な経験ができてよかったと思いました。



「自分にできることを。」

工学部機械工学科

4年 更西貴充

1日目は土の撤去を行いました。2日目は側溝の泥出しでした。3日目は草刈りを行いました。この作業中、正月に食べ損ねた(らしい)鏡餅が出てきました。賞味期限が3月31日でした。

活動を通して感じたことなんですが、人とのつながり、コミュ

ニケーションの大切さを学びました。今回、ほとんどの人が初対面で、しかも会ったのが当日という状況でしたので、最初は、このグループでできるのかなという不安がありましたが、皆さんすごい人たちがばかりで楽しく活動できました。現地の人たちとも親密になっていろいろ話すこともでき、とてもよかったと思いました。

ボランティアセンターで、無理するよりも自分のできることをしっかりしていたほうが人のためになる、他人に迷惑をかけないということを言われました。今後、無理をせず自分のできること、小さなことからコツコツとやっていこうと考えております。



「米在住者も故郷支援に。」

機械工学科

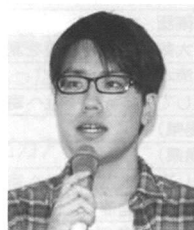
4年 福田哲平

津波の力によって標識が簡単に折れてしまっている場所や大きな建物が見事に崩れてしまっている状況、車が使え物にならなくなっているほど悲惨な状況を見ました。

僕は初日、ボランティアとして仮設住宅に生活用品の配布を行いました。現在アメリカに住んでいる方は、地元が宮古なので子供の夏休みを利用して復興のために戻ってこられていました。地元愛というものを感じました。

2日目の午後から談話室でサロンを行いました。東京から美容師の方が来ていまして、ボランティアとして活動されていました。そこへ髪を切りに来ていた方の中には3月11日からストレスによって髪の毛がどんどん抜けていったという苦勞を聞くことができ、恐ろしいものだと感じました。

活動を通じて被災地を自分の肌で感じる事ができて、いい経験になりました。今後はすべて行動に移そうという決心がついたこの活動だったと思います。



「壮行式で思い新たに。」

情報通信工学部情報学科

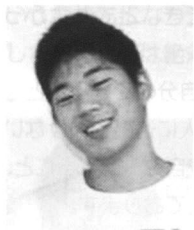
3年 大久保 忍

ニュースで同年代の人たちがボランティア活動をしているのを見、自分にも何かできないかという前々からの思いでボランティアに参加しました。出発日の8月5日、壮行式がありました。ここで改めて大阪電気通信大学の看板を背負って行くのだなと思いました。

ボランティア活動1日目は、扇風機と掃除機と洗剤を仮設住宅の方々に直接配達する仕事になりました。ヘドロ掃除もしました。排水口をあけると、底にヘドロがべったりくっついていて、とても臭かったのを覚えています。雑草抜きや欽ケ崎小学校でのボランティアもしました。私の班はプールの監視員役をしました。

ボランティア活動の1週間は、あっという間に過ぎたなと思いました。部活とかも余りやってなかったので、ボランティア

に行かなければ先輩と触れ合うこともなかったですし、津波の被害を見ることもなかったと思います。この経験を生かして、社会に貢献できるような人間になりたいと思いました。



「感謝され、
行った甲斐あった。」

総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科

1年 福田直央

仮設住宅の方々に支援物資を届ける仕事や仮設住宅を訪れ子供たちの遊び相手をしました。かき氷もつくりました。たくさんの子供たちが訪れて、本当に楽しんでいただいているようでした。つくりがいがありました。自分に何ができるかと思っていましたが、たくさんの方々に感謝の言葉をいただいて、本当に来てよかった、この仕事をやってよかったと思いました。3日目は、家の畑にある大量の雑草を抜く仕事をしました。

当初この被災地に行ったころには、本当に自分は何かができるのか、行っても何にもすることができないんじゃないかと思っていました。地震に対する恐怖はありましたが、実際に被災者の話をお聞きして、恐怖の意識が高まりました。



「原発事故見ようと…。」

総合情報学部デジタルゲーム学科

1年 寺本和晃

ボランティアに行った理由は、被災地がもう3カ月もたってしまっていて、原発事故とかほかの政治のことなどで余り聞かなくなっていたので、現状を自分の目で見て確かめようと思いました。ボランティアに行くに当たって一番怖かったのが原発のことだったので、そのことは一番注意しました。ハエとか蚊のことも聞いていたんですが、全然いなくて、逆にこっちよりいかなかったぐらいなんじゃないかなと思います。

1日目のボランティアで海の近くに行き、ひどく衝撃を受け、気持ちを切りかえることができました。4日目、鎌ヶ崎小学校でタコ焼きイベントをしたんですけど、子供が「僕の家はね、もうつぶれちゃって、ベッドとかも2回目ぐらいに行き、やっと見つかった」と言うので、ショックを受けました。

そこに（被災地）行って肌で感じないと自分はわからないので、いい経験をしたと思います。こんな機会をつくってくれて本当にありがとうございました。

東日本大震災発生に伴う

本学における支援活動 経過一覧

月 日	支 援 活 動 内 容		備 考
3月12日	東北・太平洋沿岸地震災害対策本部の設置	都倉学長(本部長)	
	第1回対策本部会議の開催		経過報告と今後の対応について協議
	第2回対策本部会議の開催		経過報告と今後の対応について協議
3月14日	第3回対策本部会議の開催		罹災者に対し、学費減免措置の実施を決定
3月21日	岩手県立大学宮古短期大学部を訪問(被害状況の確認と支援要請の有無)	早野次長	
3月22日	宮古市立鎌ヶ崎小学校を訪問(被害状況の確認と支援要請の有無)	早野次長	
3月22日～23日	被災地(岩手県宮古市)被害状況確認	早野次長	
3月25日	寝屋川キャンパス中庭付近で、大気中の放射線量を測定開始(平日毎日)		
4月5日	東北・関東大震災救援隊派遣対策本部の設置	福田理事長(本部長)	
4月14日	義援金【第一陣】を寝屋川市を通して日本赤十字社へ寄付		義援金金額 242,959円
4月14日～15日	放射線スクリーニング活動(福島県)	溝井先生	
5月14日	放射線スクリーニング活動(福島県)	溝井先生	
5月18日	義援金【第二陣】を寝屋川市を通して日本赤十字社へ寄付		義援金金額 362,313円
5月19日	FD・SD講演会「原発事故と放射線」の開催	福田工学部長、元場先生	
6月5日	本学文化会 五月祭において集まった義援金を寝屋川市を通して日本赤十字社へ寄付		義援金金額 2,386円
6月17日～19日	放射線スクリーニング活動(福島県)	溝井先生	
6月29日	義援金【第三陣】を寝屋川市を通して日本赤十字社へ寄付		義援金金額 44,339円
7月18日	市民公開講座「原発事故と放射線」の開催	福田工学部長、元場先生	
7月22日	本学体育会自動車部より大阪電通大チャリティーラリー in丹後において集まった義援金を寝屋川市を通して日本赤十字社へ寄付		義援金金額 40,000円
8月5日～11日	東日本大震災被災地支援ボランティア 出発	石井先生(隊長)	学生:25名、教職員:8名
8月8日	鎌ヶ崎学童の家を訪問	石井先生、早野次長	
8月9日	宮古市立鎌ヶ崎小学校、岩手県立宮古工業高校(岩手県立宮古商業高校内)訪問	石井先生、早野次長	
8月10日	宮古市漁業協同組合を訪問 目録贈呈	石井先生、早野次長	和船3艇の寄贈
8月11日	東日本大震災被災地支援ボランティア 帰着		
8月24日	復興支援ポロシャツの配付開始	渡部先生(デザイン)	
10月6日	東日本大震災被災地ボランティア活動報告会の開催		
10月19日	復興支援ポロシャツで集まった義援金を寝屋川市の東北地方太平洋沖地震復興支援基金へ寄付		義援金金額 220,599円
10月22日	宮古市立鎌ヶ崎小学校学習発表会へ出席 目録贈呈	石井先生、早野次長	グランドピアノ運搬車1台、ブライトヒーター3台の寄贈
11月19日	市民公開講座「放射線と原子力の今後」の開催	福田工学部長、元場先生	
11月30日	岩手県立宮古工業高校へ目録贈呈(郵送)		ベダル昇降移動式作業台3台、加湿器3台、渡り廊下用スノコ板

「宮古OECU丸」3隻が岩手・宮古漁協へ

豊穰の海へ船出 宮古OECU丸の命名・寄贈式



くす玉を割って進水式を祝う石井教授、大井組合長、藤田 法人事務局長（右から）



進水式に先立ち、第1～第3宮古OECU丸を前にテープカットする石井教授、大井組合長、藤田 法人事務局長（右から）



宮古市でボランティア活動する電通大生もクラッカーを鳴らし、進水式を祝った。



寄贈した和船に清めの酒をかける
石井教授



清めの酒をかける
藤田 法人事務局長



進水式のためクレーン車でつり上げられる第1宮古OECU丸



クレーン車でつり上げられた第1宮古OECU丸



宮古市の海に着水した第1宮古OECU丸。
復旧・復興への「第一歩。だ」

漁業の街・岩手県宮古市の東日本大震災からの復旧・復興を支援する大阪電気通信大学寄贈の和船3隻の命名・進水式が2月19、20日の両日、地元・出崎埠頭で行われました。式には、大学側から石井徳章教授（メカトロニクス基礎研究所長）、藤田智一・法人事務局長、観野福太郎・ゆうでん会評議員が出席、地元漁協組合長で岩手県漁業協同組合連合会の会長でもある大井誠治氏ら漁協関係者が出席しました。真っ白な船体船首に大学名を冠した和船は、くす玉割りやテープカットなどの式典の後、宮古の海に静かに船体を降ろしました。その瞬間、期せずして関係者から拍手がわき起こりました。ガレキの海から豊穰の漁場へ。支援の和船は大きな期待を背負って力強く船出しました。

石井教授らは、昨年夏にボランティア活動で訪れた宮古市立鉾ヶ崎小学校と大電通大卒業生が教鞭をとっていた県立宮古工業高校（浸水被害にあった）を訪問、校長らと交歓しました。地元では昨夏以降、大電通大生がボランティア活動が続けており、鉾ヶ崎小訪問の際には、極寒の校庭で実施された「ピカピカアートワークショップ」メンバーによるパフォーマンスに感激しきりでした。



昨年夏、ボランティア訪問した宮古市立鉾ヶ崎小学校を再訪問した石井教授、藤田 法人事務局長（右手前から）と同小卒業生の大阪電気通信大学事務局 早野秀樹次長

昨年夏



大阪電気通信大学の学生ボランティア隊



学園の心を届けた 学生ボランティア隊



炎天下の中、支援作業の合い間にひと休み。
疲れもみせず頑張る学生ボランティア隊



桜-撫庵

洗練された馥郁の寛ぎを、ご家族お揃いで、ぜひ…

モダンでありながら品格のたどよう味…
創り手のこだわりが個性として表現された
「桜-撫庵」の新和風創作料理。
洗練された馥郁の寛ぎを
ご家族お揃いでお楽しみください。
仕出し料理も承り中!!

<http://www17.ocn.ne.jp/~sakurabu/>



寝屋川市桜木町1-7 TEL 072-829-2992 FAX 072-826-9494